

ICOM

取扱説明書

COMMUNICATIONS RECEIVER
IC-R6

Icom Inc.



はじめに

このたびは、IC-R6をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

IC-R6は、0.100~1309.995MHzの広帯域をカバーする、超小型・軽量の受信機です。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いいただきますようお願い申し上げます。

お読みになったあとも、いつでも読めるように大切に保管してください。

本製品の概要について

◎BTL回路と大型スピーカー搭載により、屋外運用に最適な大音量で聞き取りやすくなっています。

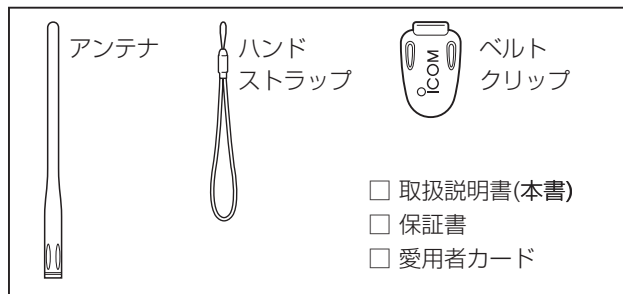
◎クローニング機能により、本製品の設定やメモリーの内容を本製品と同じ受信機に書き込みできます。(別売品が必要です) (※P69)

使用後はリサイクルへ

この製品は充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

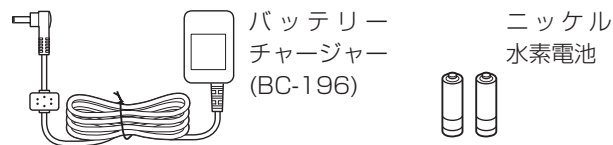


付属品について



※シリアル番号が「11XXXXXX」(はじめの2桁が11)のものには、上図の付属品に加えてバッテリーチャージャーとニッケル水素電池を付属しています。

シリアル番号は、本製品背面のシリアルシールでご確認ください。



取扱説明書の内容について

本製品は、工場出荷時の状態でプリセットされておりますが、本書は、プリセット内容が入っていない状態(オールリセット※P74)で説明しています。

そのため、一部操作画面が本書と異なりますので、ご了承ください。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

アイコム株式会社の著作物の全部、または一部を無断記載、複製およびいかなる方法による複製を禁止します。

防水性能についてのご注意

この製品は、防水構造ではありませんので、絶対に水につかないでください。

水につけると故障の原因になります。

個人情報の取り扱いについて

弊社が個人情報を利用する場合、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内で利用し、範囲を超えての利用はいたしません。

弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ(<http://www.icom.co.jp/>)をご覧ください。

電波法についてのご注意

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と通信の秘密について定められています。

※受信機の取り扱いには十分配慮して、電波法を守ってください。

※使用できるのは、日本国内に限られています。

ユーザー登録について

ユーザー登録はバージョンアップ・サービスなどをご提供するときに必要ななります。

付属の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投函してください。

また、弊社ホームページから登録される場合は、インターネットから、「<http://www.icom.co.jp/>」にアクセスいただき、ユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

はじめに

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に受信機を操作したり、受信機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。受信機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎安全運転のため、受信機を身体に付けた状態で運転しないでください。
- ◎本製品をハイブリッドカーでご使用になる場合は、搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

アナログテレビ放送からデジタルテレビ放送への移行について

- ◎本製品は地上デジタルテレビ放送(音声)に対応しておりません。
- ◎地上デジタルテレビ放送は2006年12月1日から全国で放送が開始されています。ただし、該当地域におけるサービスエリア(受信可能エリア)は、限定されていることがあります。サービスエリアは順次拡大される予定です。
- ◎地上アナログテレビ放送は2011年7月に終了することが、国の方針で決定しています。

取り扱い上のご注意

- ◎アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- ◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露することがあります。結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎雨の中や、水滴が付着したまま、またはぬれた手で電池やアンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
- ◎受信機本体や充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、ときどきお手入れをしてください。
- ◎磁気カードを本製品に近づけないでください。磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎本製品をお買い上げいただいたときや、約6ヵ月以上充電しなかったときは、必ずニッケル水素電池を充電してください。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により、逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎外部アンテナを使用するときは、テレビなどのアンテナや、電灯線からはなして設置してください。
- ◎BC-196またはCP-18を接続したときに、スプリアスや雑音を受信することがあります。できるだけBC-196またはCP-18から本製品をはなして使用してください。
- ◎本製品の内部発振(スプリアス)により、受信できなかったり、雑音を発生させたりする周波数もありますが、故障ではありません。

はじめに	i	3 各部の名称と機能	9
■ 本製品の概要について	i	■ 上面/側面/前面パネル	9
■ 付属品について	j	■ ディスプレイ	12
■ 取扱説明書の内容について	ii	4 基本操作のしかた	14
■ 登録商標/著作権について	ii	■ アマチュアバンドを受信してみる	14
■ 防水性能についてのご注意	ii	■ FM(ラジオ)放送を受信する	16
■ 個人情報の取り扱いについて	ii	■ アンテナの切り替えについて	17
■ 電波法についてのご注意	ii	■ 受信バンド(周波数帯)について	18
■ ユーザー登録について	ii	■ VFOモードとメモリーモードの切り替えかた	19
■ 自動車運転時のご注意	iii	■ 周波数を大きく変えるときは	20
■ アナログテレビ放送からデジタルテレビ放送への		■ チューニングステップを変える	21
■ 移行について	iii	■ ATT機能について	21
■ 取り扱い上のご注意	iii	■ モニターのしかた	22
安全上のご注意(必ずお読みください)	vi	■ [DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を	
■ 本製品について	vi	■ 入れ替える	23
■ ニッケル水素電池について	viii	■ ロック機能の使いかた	23
■ 充電器について(BC-196)	x	5 メモリーの使いかた	24
1 ご使用の前に	1	■ メモリーモードについて	24
■ 付属品の取り付けかた	1	■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた	25
2 電源について	2	■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容	25
■ 電池の入れかた	2	■ メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への	
■ ニッケル水素電池の充電のしかた	4	■ 書き込みかた	26
■ CP-18のヒューズ交換のしかた	8	■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容を	
		■ バンクで編集する	28
		■ メモリー/バンク/スキャンネームの使いかた	30
		■ メモリークリア(消去)のしかた	33

もくじ

6 スキャンのしかた	34	10 その他の便利な機能	68
■ スキャンについて	34	■ ボイススケルチコントロール機能について	68
■ VFOモードのスキャン	38	■ ビープ音について	68
■ オートメモリーライトスキャンのしかた	40	■ クローニングについて	69
■ スキップチャンネルの指定と解除のしかた	41	■ CI-V(リモート)について	70
■ メモリーモードのスキャン	42	■ CI-Vの基本フォーマットについて	71
7 プライオリティースキャンのしかた	43	■ コマンド一覧表	72
■ プライオリティースキャンについて	43	11 ご参考に	74
■ VFO周波数とM-CH	44	■ リセットするには	74
■ VFOスキャンとM-CH	45	■ 故障かな?と思ったら	75
■ VFO周波数とメモリースキャン	46	■ 故障のときは	76
■ VFOスキャンとメモリースキャン	47	12 定 格	77
8 SETモードの設定	48	■ 一般仕様	77
■ SETモードの設定方法	48	■ 受信部	77
■ 設定項目の一覧表	49	13 別売品について	78
■ 設定項目の詳細について	50	■ 別売品についてのご注意	78
9 各種の交信を受信するために	62	■ 別売品一覧	78
■ デュプレックス通信を受信する	62	さくいん	79
■ DTCS位相反転機能について	66		
■ トーン/コードスキャンのしかた	67		

安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にご使用いただくために、
必ずお読みください。

- ▶使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- ▶次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから、本文をお読みください。

△ 危険	この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
△ 警告	この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
△ 注意	この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】

お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■ 本製品について

△ 危険

- ◎引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。火災、爆発の原因になります。
- ◎液晶パネルが破損した場合は、液もれした液に触れないでください。
液もれした液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触ったりしないでください。
失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。

安全上のご注意

■ 本製品について(つづき)

⚠ 警告

- ◎ 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- ◎ 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- ◎ 線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 指定以外の電池を使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- ◎ 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

- ◎ この製品は完全調整していますので、絶対に分解、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。

⚠ 注意

- ◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には放置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎ 製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

⚠ 注意

- ◎ 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
変色、塗料がはがれる原因になることがあります。
ふだんはやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- ◎ 本製品を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ 本製品をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- ◎ 指定以外の別売品を使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ ハンドストラップやベルトクリップは確実に取り付けてください。
落下によるけが、本製品の破損の原因になることがあります。
- ◎ 長期間ご使用にならないときは、本製品の電源を切り、電池を取りはずしてください。
本製品を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。

■ ニッケル水素電池について

アルカリ電池については、電池に記載されている注意事項をご覧ください。

⚠ 危険

- ◎ ニッケル水素電池は、火の中に投入したり、加熱したりしないでください。
ニッケル水素電池内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。
- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。
 - ニッケル水素電池の端子にハンダ付けをしないでください。
 - ニッケル水素電池の端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
 - ネックレスなどの金属類とニッケル水素電池をいっしょに持ち運んだり、放置したりしないでください。
 - ニッケル水素電池は、水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
 - 弊社指定の充電器での充電、および受信機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の受信機や充電器で使用したり、それ以外の用途には使用したりしないでください。
 - ニッケル水素電池からもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
 - ニッケル水素電池は、絶対に分解や改造をしないでください。

安全上のご注意

■ ニッケル水素電池について(つづき)

⚠ 危険

- ◎ テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
ニッケル水素電池内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

⚠ 警告

- ◎ ニッケル水素電池の使用や充電中、または保管中などに、いつもより発熱しているなど異常と感じられたときは、使用しないで買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
そのまま使用すると、ニッケル水素電池の破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。
- ◎ ニッケル水素電池を電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 指定の充電時間以上、充電しないでください。
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、ニッケル水素電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ 指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

- ◎ ニッケル水素電池からもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、**放置しないでください。**
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ◎ ニッケル水素電池は、ぬれた状態で弊社指定の受信機に装着しないでください。
受信機の電源端子接点部に水や海水が付着すると、故障の原因になります。
- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
発熱、感電、けが、故障の原因になります。

⚠ 注意

- ◎ コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損していることがあり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所で充電しないでください。
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損したりして、破裂、発熱、発火や火災、やけどの原因になります。

⚠ 注意

- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、60℃を超える環境で放置、または使用しないでください。
ニッケル水素電池の性能や寿命が低下したり、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。
- ◎ 0℃～40℃以外の環境では充電しないでください。
周囲や本体の温度が0℃～40℃以外の環境では、充電されないことがあります。
- ◎ 下記の事項を守らないと、ニッケル水素電池の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
 - ニッケル水素電池を完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間ニッケル水素電池を保管する場合は、ニッケル水素電池を満充電にしてから、受信機から取りはずして保管してください。
 - -5℃～+60℃以外の環境で使用しないでください。
- ◎ 本製品を長期間使用しない場合はニッケル水素電池を取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。
ニッケル水素電池の発熱、サビの原因になることがあります。
 - ・ 1ヵ月以内 : -20～+45℃
 - ・ 6ヵ月以内 : -20～+35℃
 - ・ 約1年 : -20～+25℃ *

*6ヵ月ごとに充電することをおすすめします。

■ 充電器について(BC-196)

⚠ 危険

- BC-196(バッテリーチャージャー)はIC-R6専用の充電器です。
- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。
 - BC-196、別売品のBC-194、CP-18以外のものを使用しないでください。
 - 本製品以外の受信機は、充電しないでください。
 - BC-196以外の充電器は、使用しないでください。
 - 乾電池、または指定以外の充電式電池を充電しないでください。
 - 絶対に分解や改造をしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。

安全上のご注意

■ 充電器について(BC-196) つづき

△ 警告

- ◎ 下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源ケーブルの上に重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
- 電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるんだりするときは使用しないでください。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
すぐにACコンセントから電源ケーブルを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

△ 注意

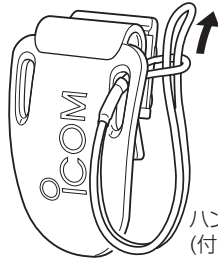
- ◎ 下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- 電池を満充電したあとも連続で充電したり、短時間使用後の再充電を繰り返したりしないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから充電器(BC-196)、またはDC(12V～16V)ジャックから弊社指定のケーブル(CP-18)を抜いてください。
- 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
- ◎ 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんはやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■ 付属品の取り付けかた

◇ ハンドストラップを取り付ける

受信時や持ち歩くときに、手首に通しておくこと、落としたりしないので安全です。

ベルトクリップ(付属品)



ハンドストラップ
(付属品)

⚠ 警告

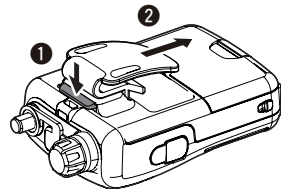
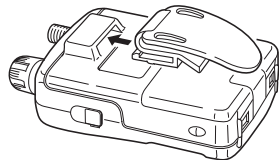
アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。

◇ ベルトクリップを取り付ける

「カチッ」と音がするまで、本体背面の取り付け部にはめ込んでください。

取りはずすときは、レバーを[①]の方向に押し下げ、[②]の方向にスライドさせます。

ベルトクリップ



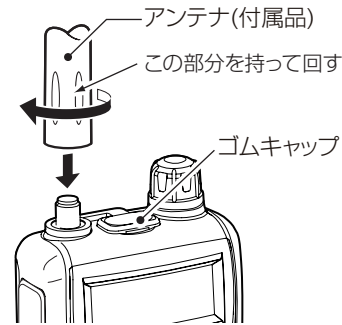
◇ アンテナを取り付ける

取り付けるときは、アンテナ(付属品)の根元を持って時計まわりに手で締まる程度まで回します。

取りはずすときは、アンテナの根元を持って反時計まわりに回します。

※ゴムキャップの上から取り付けてください。

※別売品のAD-92SMAを使用すれば、BNC接栓の外部アンテナも接続できます。(P78)



【ご参考】

アンテナコネクターは、SMA型を使用しています。付属品のアンテナでも十分な受信感度がありますが、低い周波数帯や運用する場所により受信しにくい場合があります。市販のアンテナをご使用になると受信性能がよくなる場合がありますので、販売店にご相談ください。

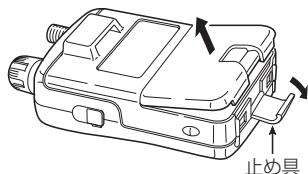
2

電源について

■ 電池の入れかた

◇ 電池カバーをはずす

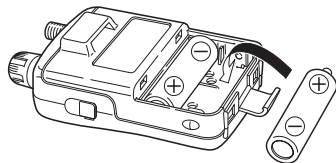
電池カバーの止め具をはずして、電池カバーを取りはずします。



◇ 電池を入れる

電池の極性⊕(プラス)、⊖(マイナス)に注意して、電池(2本)を入れます。

本製品には、充電式電池(ニッケル水素電池)、または乾電池(アルカリ電池)がご使用になれます。



◇ 電池の運用時間について

- ニッケル水素(単3形)電池は、連続受信で約15時間運用できます。
- アルカリ(単3形)電池は、連続受信で約19時間運用できます。(FMラジオ受信時で、音声出力約50mWで運用した場合)

使用条件やアルカリ電池の種類(製造元など)により、運用時間が異なることがありますので、ご注意ください。

※アルカリ電池の特性により、低温では運用時間が短くなります。

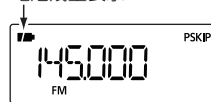
◇ 電池の交換時期について

電池の容量が残り少なくなると、電池マークが半分になります。

さらに容量が少なくなると、表示が消えたり(電源が切れたり)、ディスプレイ全体が点滅、または表示が全体的に薄くなってきます。

このようなとき、ニッケル水素電池の場合は充電してください。また、アルカリ電池の場合はすべて同じ種類の新しいアルカリ電池と交換してください。

電池残量表示



【ご参考に】

電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。使用できる温度の下限は、一般的に-10℃とされています。寒冷地でご使用になる場合は、電池を十分に保温しながらご使用ください。

◇ 電池を正しくご使用いただくために

- ◎電池の極性(⊕と⊖)に、ご注意ください。
- ◎電池を交換するときは、必ず電源を切ってください。
- ◎ニッケル水素電池、アルカリ電池は、同じ製造元の同一容量のものを使用してください。
- ◎電池の電圧が、本製品の動作範囲以下になると、電源が切れます。
- ◎電池端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがあります。
各端子は、乾いた布などで定期的にお手入れしてください。
- ◎使用しないときは、電池を取りはずして保管してください。
- ◎ニッケル水素電池は消耗品ですので、充電と放電を繰り返す回数が多くなってくると運用時間が短くなってきます。
運用時間が極端に短くなったときや、電源が入らなくなったときは、寿命ですので、新しいニッケル水素電池をご購入ください。
- ◎電池に記載されている注意事項も、併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

【お願い】

使用済みの充電式電池は、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の端子にテープなどを貼り、絶縁してから、充電式電池のリサイクル協力店にご持参ください。

【ご参考】

接触不良を防ぐために、電池の端子を乾いた布などで定期的に清掃されることをおすすめします。

2 電源について

■ ニッケル水素電池の充電のしかた

ニッケル水素電池は、出荷時の状態では十分な充電がされていません。

ご使用前に、必ず充電してください。

※ 充電しながら、受信することもできます。

- ニッケル水素電池
容量：1400mAh ×2本
- バッテリーチャージャー(BC-196)
入力電圧：AC100V、50/60Hz
出力電圧：DC4.5V、0.3A
- シガレットライターケーブル(CP-18)
入力電圧：DC12～16V
出力電圧：DC6V、1.5A

△危険

- ◎ 乾電池、または指定以外の充電式電池を充電しないでください。
- ◎ 弊社指定以外の充電器で充電しないでください。

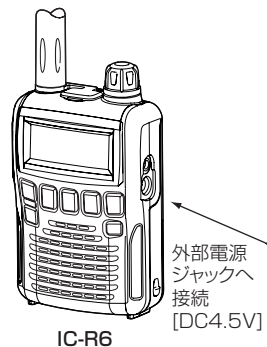
△注意

ニッケル水素電池を完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。

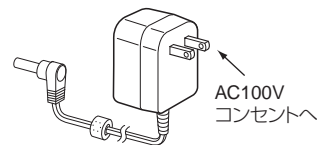
長期間電池を保管する場合は、電池が満充電になってから、受信機から取りはずして保管してください。

保管期間と温度範囲については、xページをご覧ください。

◇ 接続について



- バッテリーチャージャー(BC-196)



- シガレットライターケーブル(CP-18)



◇ 充電のしかた

- ① ニッケル水素電池(単3形)を装着します。

※ 電池電圧(2本の合計電圧)が1V以下の場合、または充電機能が動作しない場合は充電しません。(※P6)

※ 充電しながら受信する場合は、電源を入れます。(※P14)

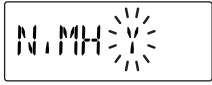
【ご注意】
 ※ 下記手順②から手順⑥の各操作を、10秒以内で操作してください。
 10秒間操作をしなかった場合は、接続前の表示に戻り、充電しません。
 充電を再開する場合は、電池を本製品から2秒以上はずして、再セットし、手順②から操作してください。
 ※ アルカリ電池を装着し、BC-196、またはCP-18を接続して受信するときは、必ず「NiMH N」を選択して、[BAND]を押してください。

② 4ページの接続図を参考にして、外部電源ジャックへ外部電源(BC-196、またはCP-18)を接続します。

ディスプレイに「NiMH N」を表示して、ピープ音が鳴ります。



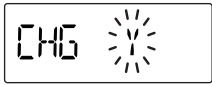
③ [DIAL]を回して、「NiMH Y」を選択します。



④ [BAND]を押すと、ディスプレイに「CHG N」を表示して、ピープ音が鳴ります。



⑤ [DIAL]を回して、「CHG Y」を選択します。



⑥ [BAND]を押すと、充電を開始します。
 充電開始とともに充電時間をカウントして、約15時間で充電を停止します。(充電中は下記のように電池マークが点滅します。) 充電中の電池マークの表示



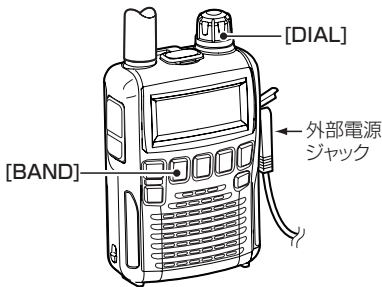
〈充電時間は、約15時間です。〉



電源OFF時の充電中の表示



電源ON時の充電中の表示



※ 充電完了後は、電池マークおよび「CHARGE」が消えます。
 ※ 本製品は、約15時間の充電完了後から微量電気の消費を防ぐため、少しずつ充電して常に満充電の状態にする充電方法を初期設定しています。(※P60)
 このとき、約15時間の充電完了後から、電池マークおよび「CHARGE」は表示しません。


2 電源について

■ ニッケル水素電池の充電のしかた(つづき)

- ※ 充電機能は、電源の“ON/OFF”に関係なく動作します。
- ※ 充電中に外部電源(BC-196、またはCP-18)がはずれた場合、約1分以内であれば、再度外部電源を接続すると継続して充電を再開します。
- ※ 充電中に接続した外部電源(BC-196、またはCP-18)が一時的に電圧低下したときも、約1分以内であれば、継続して充電を再開します。
なお、1分以上経過すると充電時間をリセットして、充電を再開します。
- ※ 充電を中止または変更するときは、外部電源ジャックに接続しているBC-196、またはCP-18をはずしてください。その後、電池を本製品から2秒以上はずして、再セットし、「充電のしかた」(P5)にしたがって操作してください。
- ※ 充電時間は、約15時間ですが、充電温度範囲(0℃～40℃)外になると、電池マーク全体が点滅し、一時停止します。
このような場合は、一時停止した時間だけ充電時間が長くなります。

※ 電池電圧(2本の合計電圧)が1V以下の場合、または充電機能が動作しない場合は充電しません。
このときは、電池を本製品から2秒以上はずして、再セットし、[FUNC]を押しながら外部電源(BC-196、またはCP-18)を接続してください。
その後、「充電のしかた」(P5)にしたがって操作してください。

◇ 充電についてのご注意

- ◎ アルカリ電池使用時は、BC-196、またはCP-18を接続して、絶対に充電しないでください。
液もれや発熱により、本製品に重大な破損を与えることがあります。
- ◎ 大型車など24Vのバッテリーをご使用の場合は、CP-18のほかにDC-DCコンバータ(24Vを12Vに変換)が必要です。
お買い上の販売店にご相談ください。
- ◎ CP-18はDC-DCコンバータを内蔵しているため、常に微電流が流れています。
車のバッテリーを保護するためにも使用しないときは、シガレットライターソケットからはずしてください。
- ◎ 充電する前に、CP-18に供給する電圧がDC12V～16Vの範囲内であることを確認してから接続してください。
- ◎ 本製品の運用や充電をしないときは、外部電源(BC-196/CP-18)を本製品から取りはずしてください。
- ◎ 充電が完了した直後に、電源プラグの抜き差しを繰り返すなどして再充電をしないでください。
- ◎ 充電しても、 (電池残量表示)を3段階で示す充電中の表示が、約1分後に消えるときは、ニッケル水素電池に異常な場合がありますので、取りはずしてお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- ◎ ご家庭のコンセントの電圧(AC100V)が極端に低くなったときは、正常に充電できないことがあります。

◎ニッケル水素電池が満充電になったあと、引きつづき充電したり、短時間運用後に再充電したりすることは、みかけ上電池の容量が低下した状態となるだけでなく、過充電になって電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。このようなときは、完全に放電(通常の運用)したあと、再充電してください。

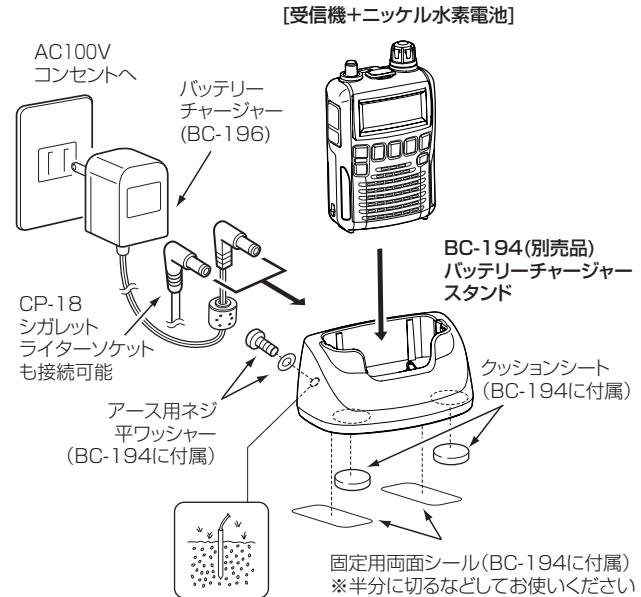
◇BC-194(バッテリーチャージャースタンド)の接続
バッテリーチャージャーをBC-194へ接続し、本製品をBC-194へ装着した状態で充電、または受信できます。

※充電の操作については、「充電のしかた」(P4)にしたがって操作してください。

※アースを接続すると、電源からのノイズの影響を軽減できることがあります。

【ご注意】

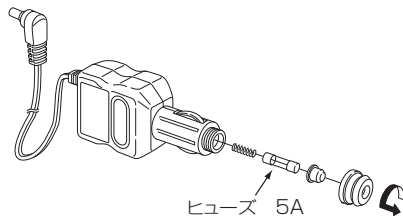
ガス管や配電管、水道管に絶対アースを取らないでください。火災、感電、故障の原因になります。
アースは市販のアース棒や銅板を使用してください。



2 電源について

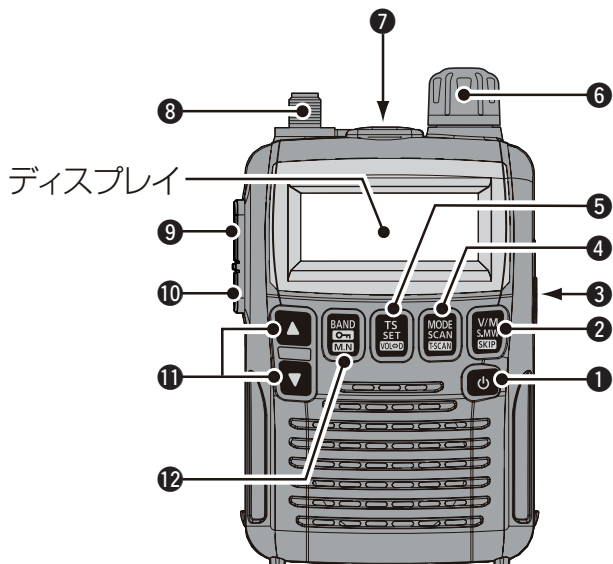
■ CP-18のヒューズ交換のしかた

別売品のCP-18には、5Aのヒューズが内蔵されています。
ヒューズが切れたときは、下図の方法で同じ容量の新しい
ヒューズと交換してください。



※ 交換するときは、小さな部品をなくさないようにご注意ください。

■ 上面/側面/前面パネル



① PWR(電源)キー [P]

長く(約1秒)押すごとに電源を“ON/OFF”します。
(☞P14)

② V/M S.MW SKIP キー [V/M]



- ➡ キーを押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。(☞P19)
- ➡ キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、セレクトメモリーライト状態になります。(☞P26)
- ➡ VFOモード時、[FUNC]を押しながら [SKIP] (V/M)を押すと、PSKIP(周波数スキップ)の指定を“ON/OFF”します。(☞P39)
- ➡ メモリーモード時、[FUNC]を押しながら [SKIP] (V/M)を押すと、PSKIP(周波数スキップ)/SKIP(メモリスキップ)/OFF(スキップ設定なし)の指定を切り替えます。(☞P41)

③ 外部電源ジャック(DC4.5V)

バッテリーチャージャー(BC-196)またはシガレットライターケーブル(CP-18)を接続するジャックです。(☞P4)
※外部電源による運用、またはニッケル水素電池の充電に使用できます。

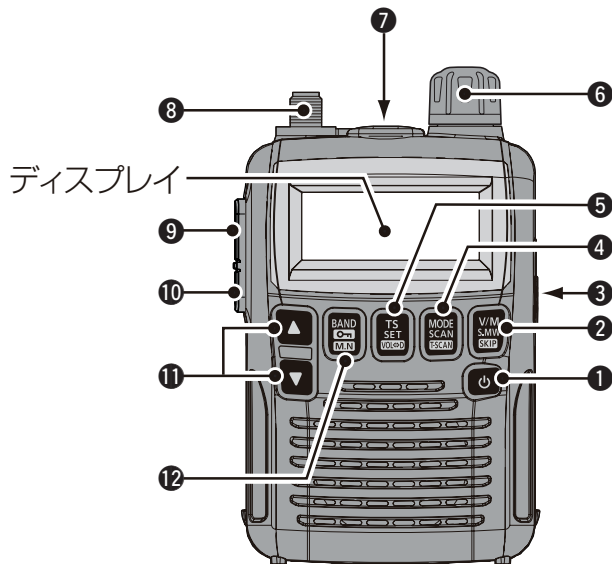
④ MODE SCAN [SCAN] キー [MODE]




- ➡ キーを押すごとに、受信モード(電波型式)を切り替えます。(☞P15)
- ➡ キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、各種スキャンの選択画面を表示します。(☞P38、P39、P42)
- ➡ [FUNC]を押しながら [SCAN] (MODE)を押すと、トーンスキャンがスタートします。(☞P67)

3 各部の名称と機能

■上面/側面/前面パネル(つづき)



5 TS SET キー [TS]

- ➡ キーを押すと、チューニングステップ(TS)の設定状態になります。(P21)
- ➡ キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、SETモードの状態になります。(P48)
- ➡ [FUNC] を押しながら [] (TS) を押すと、[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を入れ替えます。(P23)

6 DIAL(ダイヤル)ツマミ[DIAL]



- VFOモードでは周波数の設定、メモリーモードではメモリーチャンネルを呼び出します。(P16、P25)
- また、スキャン方向の変更などにも使用します。(P35)

7 イヤホンジャック[SP]

- 別売品のイヤホンを接続するジャックです。(P78)
- 本製品をクローニングするときは、クローニングケーブルを接続します。(P69)

8 アンテナコネクター

- 付属品のアンテナを接続するコネクターです。(P1)
- ※別売品のAD-92SMAを使用すれば、BNC接栓の外部アンテナも接続できます。(P78)

9 FUNCキー[FUNC]



[FUNC]を押しながら、該当するキーや[DIAL]を操作すると、各種機能が動作します。

● VFOモード時

[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、設定している周波数ステップで周波数をアップまたはダウンします。
(初期設定値：1MHzステップ)(☞P20)

● メモリーモード時

[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、M-CHを10CHステップでアップまたはダウンします。

● SETモード時

[FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、SETモードの設定内容を選択します。(☞P48)

10 SQL(スケルチ)キー[SQL]



→キーを押しているあいだ、スケルチを開いて受信します。(モニター機能)(☞P22)

※キーを押しながら[DIAL]を回すと、スケルチレベルを変更できます。(☞P15)

→[FUNC]を押しながら[ATT](SQL)を押すと、アッテネーター(ATT)機能を“ON/OFF”します。
(☞P21)

11 音量アップ/ダウンキー[▲]/[▼]



音量レベルをアップまたはダウンします。

※[▲]または[▼]を押しながら[DIAL]を回しても調整できます。(☞P14)



12 BAND M.N キー[BAND]




→VFOモード時は、受信バンドを切り替えます。
(☞P18)

→メモリーモード時は、メモリーモード時の表示機能を切り替えます。(☞P19)

押すごとに、「バンク A」→「バンク B」～「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーモード」と切り替えます。

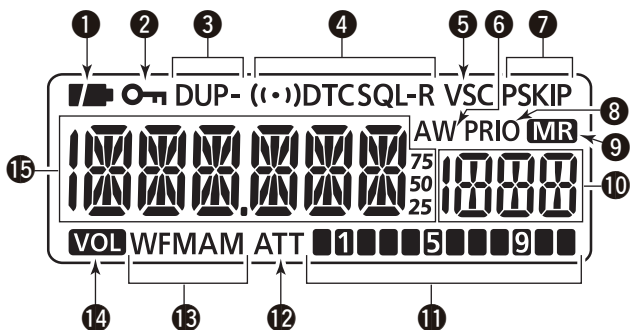
※キーを押しながら[DIAL]を回しても切り替えます。

→[FUNC]を押しながら[](BAND)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、ロック機能を“ON/OFF”します。(☞P23)

→メモリーモード時、[FUNC]を押しながら[M.N](BAND)を押すと、「メモリーモード」→「B NAME(バンクネーム)」→「M NAME(メモリーネーム)」→「CH-000(チャンネル表示)」と表示を切り替えます。(☞P32)

3 各部の名称と機能

■ ディスプレイ



① 電池残量表示部

電池の残量を表示します。

残量が少なくなると電池マークが半分になります。

※充電中は、電池マークが3段階に変化します。(☞P5)

② ロック表示部

ロック機能が動作中に表示します。(☞P23)

③ デュプレックス表示部

デュプレックスモード(DUP-/DUP)を選択中に表示します。(☞P63)

④ トーンスケルチ/デジタルコードスケルチ表示部

各種トーン機能を設定しているときに表示します。

(☞P37、P65)

- ((.)) T SQL : CTCSSによるポケットビープ機能
- T SQL : トーンスケルチ機能
- ((.)) DTCS : DTCSによるポケットビープ機能
- DTCS : DTCSコードスケルチ機能
- T SQL-R : 逆トーンスケルチ機能
- DTCS-R : 逆DTCSコードスケルチ機能
- SQL : 空線キャンセラー機能、MSK機能

⑤ ボイススケルチコントロール表示部

ボイススケルチコントロール機能の動作中を表示します。

(☞P68)

⑥ オートメモリーライト用チャンネル表示部

オートメモリーライト用チャンネルを選択すると表示します。(☞P40)

⑦ スキップ表示部

スキップ機能を表示します。(☞P39、P41)

- **SKIP** : メモリースキップ
- **PSKIP** : プログラムスキップ

⑧ プライオリティー表示部

プライオリティースキャンの動作中に表示します。(☞P43)

⑨ メモリーモード表示部

メモリーモード状態を表示します。(☞P19、P25)

⑩ メモリー表示部

メモリーバンク、メモリーチャンネル番号、SETモードの項目などを表示します。

⑪ Sメーター表示部

受信した信号の強さを表示します。(☞P16)

⑫ アッテネーター表示部

アッテネーター(ATT)機能が動作中に表示します。
(☞P21)

⑬ MODE表示部

受信モード(電波型式)を表示します。(☞P15)

⑭ VOL(ボリューム)表示部

[▲]/[▼]の音量調整と[DIAL]の周波数調整に割り当てている機能が入れ替わったことを表示します。(☞P23)
点灯時は、[▲]/[▼]が周波数調整、[DIAL]が音量調整として動作します。

⑮ 周波数表示部

受信周波数、メモリー、バンクネーム、SETモードの内容などを表示します。

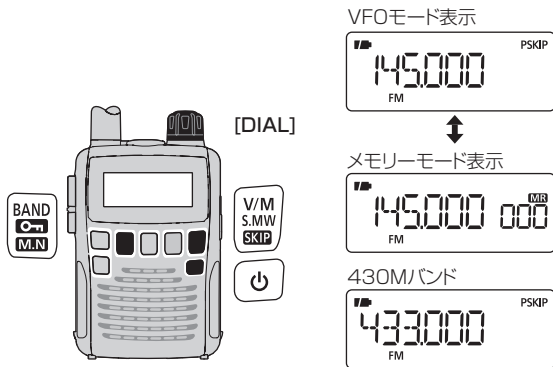
SETモード時は設定項目と設定内容を表示します。(☞P48)

4 基本操作のしかた

■ アマチュアバンドを受信してみる

◇ アマチュアバンド(430Mバンド)を選択する

- ① **[ON]**を長く(1秒以上)押し、電源を“ON”にします。
※電源を“OFF”にするときは、再度**[ON]**を長く(1秒以上)押しします。
- ② **[V/M]**を数回押し、VFOモードにします。
※押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。
- ③ **[BAND]**を押して、アマチュアバンド(430Mバンド)を選択します。
※押すごとに「BC(1M)」→「5M」→「50M」→「FM放送(76M)」→「AIR」→「144M」→「300M」→「430M」→「800M」→「1200M」→「BC(1M)」と受信バンドが切り替わります。(※P18)
※**[BAND]**を押しながら**[DIAL]**を回しても選択できます。



◇ 音量を調整する

- [▲]/[▼]**を押して、40段階で音量を調整します。(ディスプレイが音量レベル表示になります。)
※押しつづけると、連続動作になります。
※**[▲]/[▼]**を押しながら**[DIAL]**を回しても調整できます。
※押すごとにピープ音が鳴り、音量の目安になります。



● ビープ音の種類

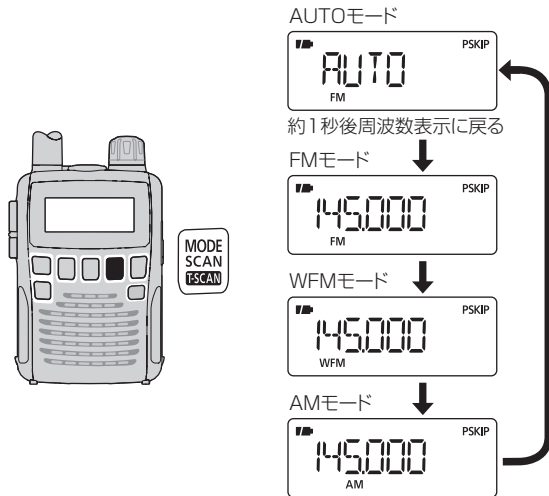
- “ピッ” : 短く押すキー操作が正しいとき
- “ピッ、ピー” : 長く押すキー操作が正しいとき
- “ブッ” : キー操作が無効のとき
- “ピッ ピピ” : メモリー書き込み操作が正しいとき

※BEEP(操作音)の音量を変更したいときは、SETモードの「BEEPLV」(ビープレベルの設定)で変更できます。(※P51)

◇ 受信モード(電波型式)を設定する

受信モード(電波型式)は初期設定で「AUTO」に設定しています。「AUTO」選択時は、受信バンドごとによく使われている、受信モードが選択されます。

- ※ 受信モードを変えるときは [MODE] を押して、選択します。
- ※ 押すごとに「AUTO」→「FM」→「WFM」→「AM」→「AUTO」と切り替えます。
- ※ 設定した受信モードは、受信中のバンドだけに有効です。



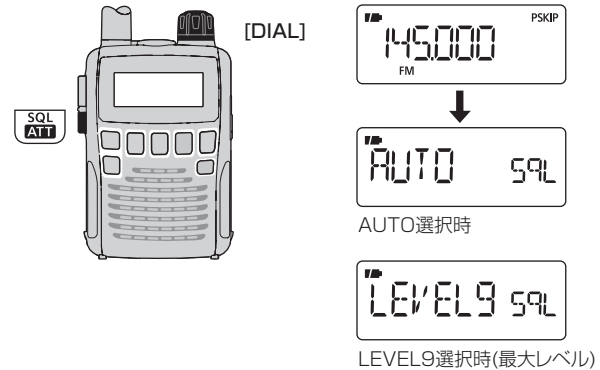
◇ スケルチレベルを調整する

- ① [SQL] を押しながら [DIAL] を1クリック回すと、現在設定しているスケルチレベルを表示します。
※ 初期設定で「AUTO」を設定しています。
- ② [SQL] を押しながら [DIAL] を回して、信号を受信していない状態で雑音(ザー)が消える値に、スケルチレベルを調整します。

● スケルチレベル

OPEN(開放)	AUTO(自動)	LEVEL1	LEVEL2	LEVEL3	LEVEL4
LEVEL5	LEVEL6	LEVEL7	LEVEL8	LEVEL9	

- スケルチレベルの数値が小さいほど、弱い信号でも受信することができます。



4 基本操作のしかた

■ アマチュアバンドを受信してみる(つづき)

◇ 周波数を設定する

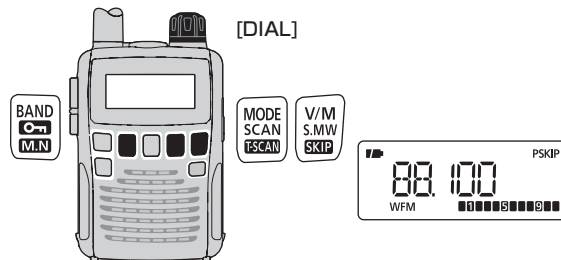
- ① [V/M]を数回押して、VFOモードにします。
- ② [DIAL]を回して、受信する周波数を設定します。
 - ※ アマチュアバンドのチューニングステップは、20kHzを初期設定しています。
 - ※ 周波数を大きく変えるときは、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。
 - 1MHzステップ(初期設定値)で周波数を設定できます。
 - ※ [DIAL]を速く回すと、ダイヤルスピード機能が動作し、さらにスピードアップします。(P53)
- ③ 受信すると、信号の強さに応じてSメーターが振れます。



■ FM(ラジオ)放送を受信する

《例》FMラジオ 88.100MHzを受信する

- ① [V/M]を数回押して、VFOモードを選択します。
- ② [BAND]を数回押して、FM放送(76M)バンドを選択します。(初期表示：76.000MHz)
 - ※ [BAND]を押しながら[DIAL]を回しても選択できます。
- ③ [MODE]を数回押して、WFMモードを選択します。
 - ※ AUTOモード選択時は、自動的にWFMモードになります。
- ④ [DIAL]を回して、88.100MHzを設定します。
- ⑤ 受信すると、ラジオ放送が聞こえてきます。信号の強さに応じてSメーターが振れます。



■ アンテナの切り替えについて

● バーアンテナについて

BC(1M)バンドで、AMラジオ放送の周波数帯(0.495MHz～1.620MHz)を受信するときは、内蔵のバーアンテナを使用できます。

アンテナコネクタにアンテナを接続しなくてもAMラジオ放送をお楽しみいただけます。

● イヤホンアンテナについて

接続するイヤホンをワイヤーアンテナとして使用できます。イヤホンアンテナは、BC(1M)バンドのAMラジオ放送の周波数帯(0.495MHz～1.620MHz)以外の周波数でご使用いただけますが、アンテナの特性上、FMラジオ放送の周波数帯(76.000MHz～107.995MHz)やTV放送などの強い電波を受信するときに、より効果があります。

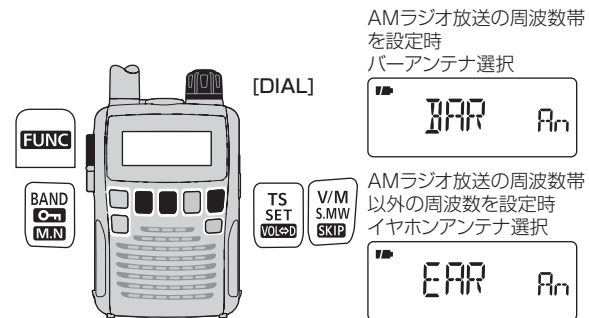
※バーアンテナ、またはイヤホンアンテナと外部アンテナ(付属のアンテナ)の切り替えは、SETモードで設定します。

※イヤホンアンテナに切り替えた場合でも、外部アンテナで受信できます。

【ご参考】

- ※ イヤホンアンテナまたは内蔵のバーアンテナを使用すると、ノイズを受けたり、スプリアスを受信したりすることがあります。この場合は、付属のアンテナ、または市販の外部アンテナを使用することをおすすめします。
- ※ AMラジオ放送またはFMラジオ放送以外を受信するときは、付属のアンテナ、または市販の外部アンテナの使用をおすすめします。
- ※ バーアンテナを使用するときは、よく聞こえる方向に向けてください。

- ① [V/M]を数回押してVFOモードにし、[BAND]を数回押してバンドを選択します。
- ② [DIAL]を回して、周波数を設定します。
※BC(1M)バンドでAMラジオ放送の周波数帯を選択したときは、受信モードを「AM」に設定してください。
- ③ [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにし、[DIAL]を回して「ANT」(アンテナ切り替えの設定)を選択します。
- ④ [FUNC]を押しながら [DIAL]を回して、アンテナを選択します。
 - AMラジオ放送の周波数帯(0.495MHz～1.620MHz) : 「EXT」(外部アンテナ)/「BAR」(バーアンテナ)
 - AMラジオ放送の周波数帯以外の周波数 : 「EXT」(外部アンテナ)/「EAR」(イヤホンアンテナ)
- ⑤ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除します。



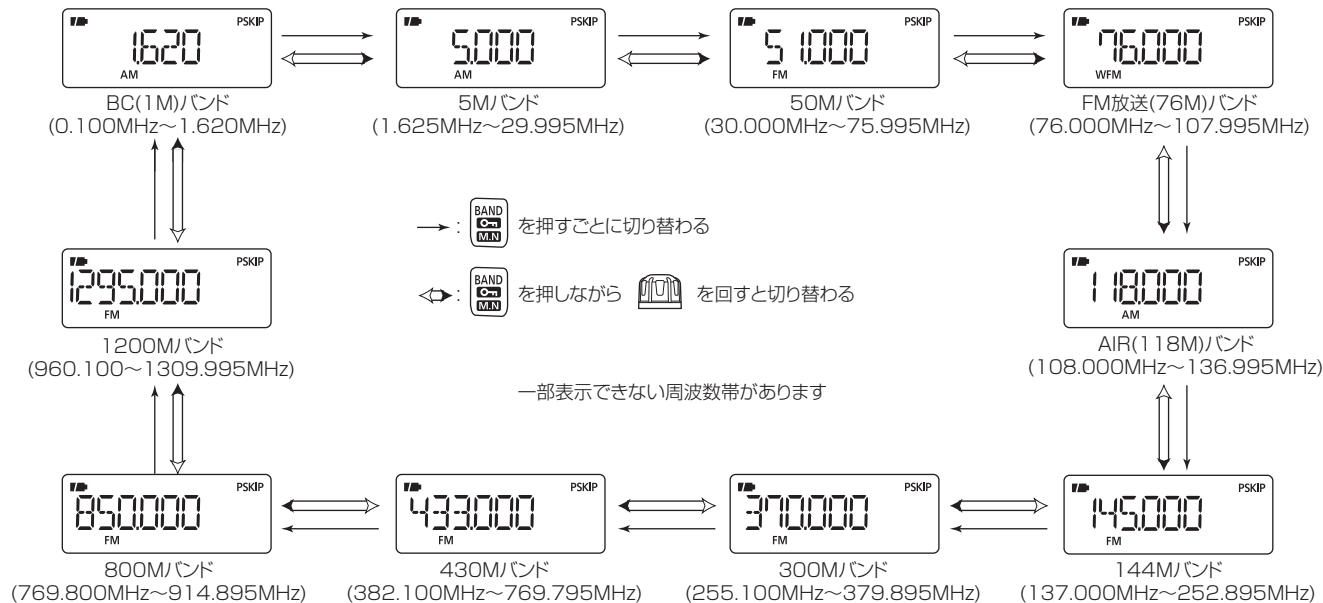
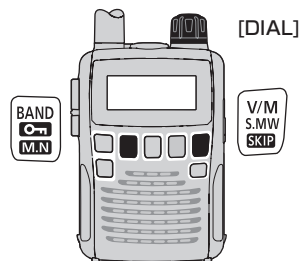
4 基本操作のしかた

■ 受信バンド(周波数帯)について

バンドごとの周波数範囲と初期設定周波数は、下図のとおりです。

◇ 受信バンドの選択

- ① [V/M]を数回押して、VFOモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、受信バンドを選択します。
※[BAND]を押しながら[DIAL]を回しても選択できます。



■ VFOモードとメモリーモードの切り替えかた

VFOモードとメモリーモードは、下記のように使い分けます。

◇ VFOモードとは

[DIAL]で周波数を設定するモードです。

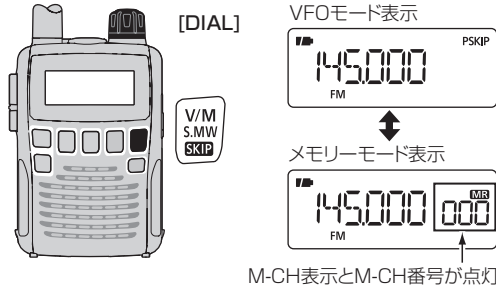
- ① [V/M]を押します。
※ 周波数を表示します。
- ② [DIAL]を回すと、周波数の設定ができます。(P16)

◇ メモリーモードとは (P24)

あらかじめ記憶させたM-CHを呼び出して受信するモードです。

※ 本製品は、工場出荷時の状態でプリセットされていますが、本書はプリセット内容が入っていない状態(オールリセットP74)で説明しています。

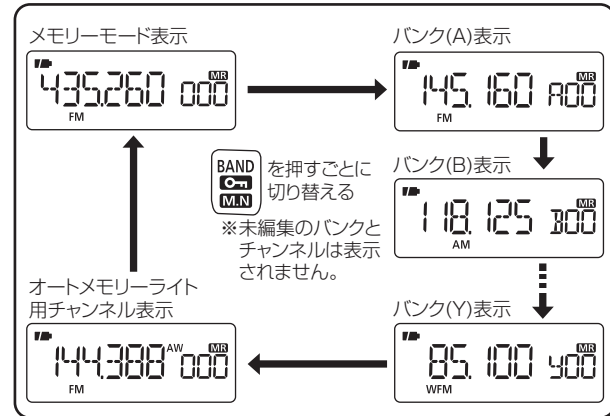
- ① [V/M]を押します。
※ 「MR」表示とM-CH番号が点灯します。
- ② 以後、[DIAL]を回すと、書き込まれているM-CHを呼び出します。



◇ メモリーモード時の表示切り替えについて

メモリーモード時に、[BAND]を押すごとに、「バンク A」→「バンク B」～「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーモード」と表示を切り替えます。

※ [BAND]を押しながら、[DIAL]を回しても切り替えます。



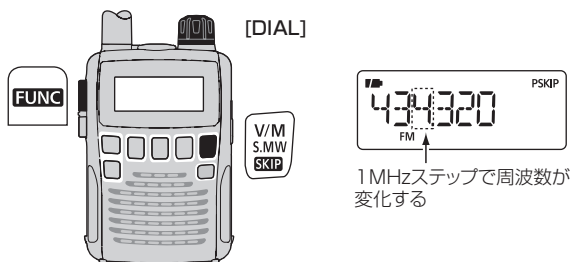
※ VFOモード表示は、選択した受信バンドを表示します。

4 基本操作のしかた

■ 周波数を大きく変えるときは

周波数を大幅に移動するときに便利な機能です。

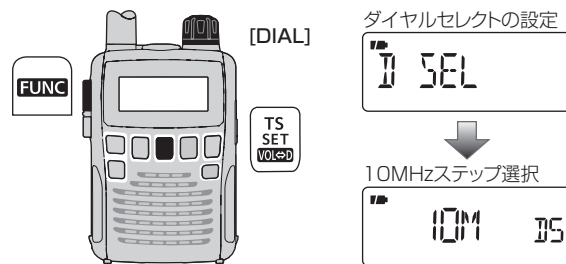
- ① [V/M]を数回押しして、VFOモードにします。
- ② [FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。
※ 1MHzステップ(初期設定値)で周波数を設定できます。



◇ 周波数ステップを変更する

周波数を大幅に移動するときの周波数ステップは、SETモードで変更できます。

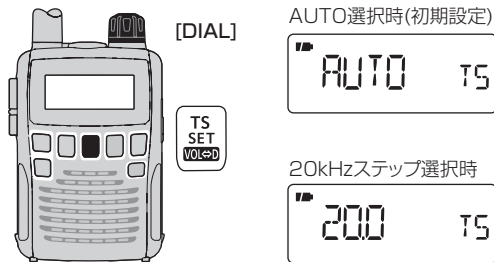
- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しして、SETモードにします。
- ② [DIAL]を回して、「D SEL」(ダイヤルセレクトの設定)を選択します。
- ③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、周波数ステップを選択します。
 - 100k : 周波数ステップが100kHzになります。
 - 1M : 周波数ステップが1MHzになります。(初期設定)
 - 10M : 周波数ステップが10MHzになります。
- ④ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除します。



■ チューニングステップを変える

チューニングステップ(TS)とは、[DIAL]で周波数を設定するときに、変化する周波数の間隔です。

- ① [TS]を押します。
- ② [DIAL]を回して、チューニングステップを選択します。
 - ※5.0/6.25/8.33*1/9.0*2/10.0/12.5/15.0/20.0/25.0/30.0/50.0/100.0/125.0/200.0kHzおよびAUTO*3(初期設定)が選択できます。
 - *1 : AIRバンドのみ選択でき、その他のバンドでは選択できません。
 - *2 : BC(1M)バンドのみ選択でき、その他のバンドでは選択できません。
 - *3 : 周波数範囲によってチューニングステップを自動で設定しています。
- ③ [TS]を押すと、チューニングステップ選択画面を解除します。



■ ATT機能について

アッテネーター(減衰器)は、強い信号を受信したときに信号強度を減衰して受信音のひずみを低減します。また、高性能なアンテナ(市販品)を使用した場合に、強い信号からの妨害を抑える効果もあります。

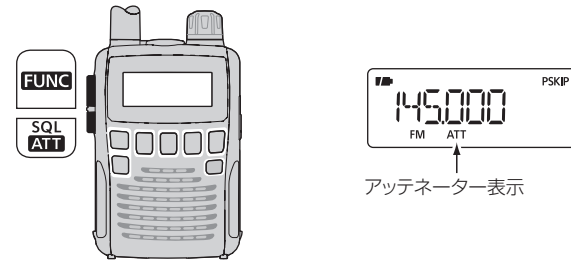
アッテネーターの減衰量は約10dBですが、受信周波数により変化します。

[FUNC]を押しながら[ATT](SQL)を押すと、アッテネーター(ATT)機能が“ON/OFF”します。

“ON”時は、[ATT]表示が点灯します。

※ パーアンテナで受信しているときは、[ATT]表示が点灯しても動作しません。(※P17)

※ M-CHごとに設定できます。(※P24)



4 基本操作のしかた

■ モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に使用します。

[SQL]を押しているあいだ、スケルチを開いて受信します。スケルチレベルの「OPEN」と同じ状態になります。

※ [SQL]の動作を、1回押すごとに“ON/OFF”するようにSETモードの「MONI」(モニターホールド機能の設定)で変更できます。(P53)

- モニターホールド機能使用時は、1回押すごとに“ON”(スケルチが開く)になり、再度短く押すと“OFF”(スケルチが閉じる)になります。



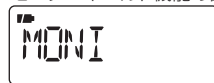
モニター機能動作時は点滅する

◇ モニターホールド機能の設定を変更する

モニターホールド機能は、EXPAND SETモードで変更できます。

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
- ② [DIAL]を回して、「EXPAND」(機能拡張の設定)を選択します。
- ③ [FUNC]を押しながら [DIAL]を回して、「ON」を選択します。
- ④ [DIAL]を回して、「MONI」(モニターホールド機能の設定)を選択します。
- ⑤ [FUNC]を押しながら [DIAL]を回して、選択します。
 - PUSH：押しているあいだ、スケルチを開きます。(初期設定)
 - HOLD：一回押すとスケルチを開き、もう一度押すとスケルチを閉じます。
- ⑥ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除します。

モニターホールド機能の設定



PUSH選択



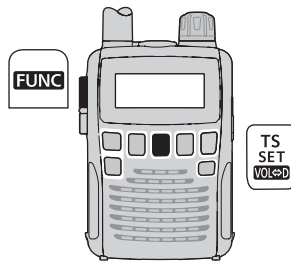
■ [DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を入れ替える

[DIAL](周波数やM-CHなどの設定)と、[▲]/[▼](音量調整)に割り当てている機能を入れ替えます。

[FUNC]を押しながら[VOL/D] (TS)を押すごとに、入れ替わります。

※ [DIAL]の操作を音量設定に入れ替えると、[VOL]表示が点灯します。

	通常の動作	入れ替え時の動作
[DIAL]	<ul style="list-style-type: none"> •周波数の設定 •スキャン方向の切り替え •メモリーの設定 •スケルチの設定 •SETモードの項目と内容の設定 	<ul style="list-style-type: none"> •音量の設定
[▲]/[▼]	<ul style="list-style-type: none"> •音量の設定 	<ul style="list-style-type: none"> •周波数の設定 •スキャン方向の切り替え •メモリーの設定 •スケルチの設定 •SETモードの項目と内容の設定



入れ替え機能動作時に点灯

■ ロック機能の使いかた

不用意に [DIAL] やキーに触れても、周波数や受信状態が変わらないようにする機能です。

[FUNC]を押しながら [ON] (BAND)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、ロック機能を“ON/OFF”します。

- ロック機能設定時は、「ON」(ロック表示)が点灯します。
- ロック機能を解除するときも、同じ操作をします。
- ロック機能を設定しても、[ON]、[FUNC]+[ON] (BAND)、[▲]/[▼]*、[SQL]*、スケルチレベルの調整* ([SQL]+[DIAL])はロックされません。

*SETモードの「LOCK」(キーロック機能の設定)により、ロックするキーを変更できます。(P52)



5

メモリーの使いかた

■メモリーモードについて

よく使用する周波数や情報などを、あらかじめメモリーチャンネル(以下、**M-CH**と略記します。)に記憶させておき、すばやく呼び出して受信できます。

◇表記について

- 本製品には、通常のM-CHとして1300CH(受信バンドの区別はありません)、プログラムスキャン用チャンネル(以下、**PROGRAM-CH**と略記します。)として50CH(00A/00B～24A/24B)、およびオートメモリーライト200CH(^{AW}000～^{AW}199)の合計1550CHを内蔵しています。
- M-CHで受信する際は、メモリーモードにします。メモリー(記憶)していないM-CHは呼び出さないので、すばやく目的のM-CHを呼び出せます。
- M-CHに記憶する際は、VFOモードで内容を設定したあと、書き込み操作をします。

◇M-CHに記憶できる内容

通常のM-CHは、受信周波数のほかに、下記の内容を記憶します。

デュプレックスのON/OFF*	メモリーバンク
シフト方向(+/-)*	メモリーネーム
オフセット周波数*	スキップチャンネル
トーンスケルチのトーン周波数と受信モードのON/OFF*	DTCSコードスケルチのDTCSコードと受信モードのON/OFF*
DTCSコードの位相反転機能*	受信モード(電波型式)*
AFフィルター*	アッテネーターの設定*
チューニングステップ(TS)*	ボイススケルチコントロール*
空線キャンセラー機能の設定*	空線信号周波数の設定*

*オートメモリーライト用CHで、受信周波数のほかに記憶する内容です。

PROGRAM-CHでは、上限周波数/下限周波数のほかに、下記の内容を記憶します。

スキャンネーム	受信モード(電波型式)
チューニングステップ(TS)	アッテネーターの設定

■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容

チャンネル	おもな用途
000～1299 (M-CH)	<ul style="list-style-type: none"> ● 通常のM-CHとして使用する ● オールリセット時に設定されている内容 「000」: 145.000MHz 「001」: 433.000MHz ※「002～1299」はオールリセット時、ブランクチャンネルのため表示しない
00A/00B～ 24A/24B (PROGRAM- CH)	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムスキャンの周波数設定用 (25組×2CH) ● オールリセット時に設定されている内容 「00A」: 0.100MHz / 「00B」: 1300.000MHz 「01A」: 144.000MHz / 「01B」: 146.000MHz 「02A」: 430.000MHz / 「02B」: 440.000MHz ※「03A/03B～24A/24B」はオールリセット時、ブランクチャンネルのため表示しない
^{AW} 000～ ^{AW} 199 (オートメモリー ライト用CH)	<ul style="list-style-type: none"> ● オートメモリーライトスキャン時の自動書き込み用 「^{AW}000」～「^{AW}199」(200CH)

【ご注意】

メモリーの内容は、静電気や電氣的雑音などで消失することがあります。

また、故障や修理の際にも消失する場合があります。

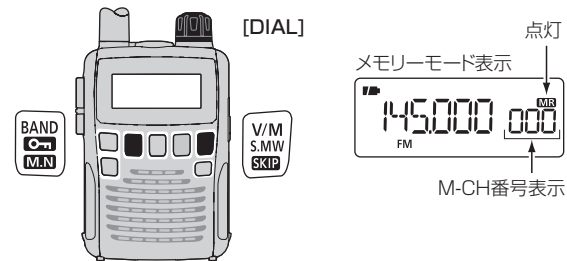
メモリーの内容を紙などに控えておくか、CS-R6(クローニングソフトウェア)を使用して、パソコンに保存することをおすすめします。

■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

◇ [DIAL]で呼び出すには

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、メモリーモード表示にします。
- ③ [DIAL]を回します。

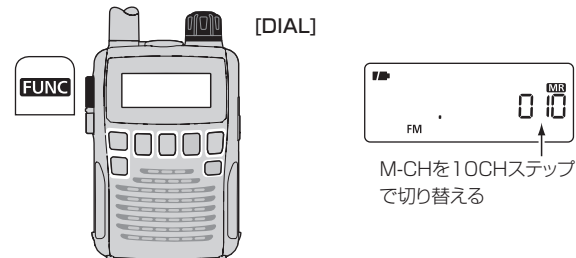
※ 書き込まれているM-CHだけを呼び出します。



◇ 10CHステップで呼び出すには

[FUNC]を押しながら[DIAL]を回します。

※ M-CHを10CHステップで、呼び出すことができます。
(ブランクチャンネルも呼び出します。)



5 メモリーの使いかた

■ メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

メモリーチャンネル(M-CH)、プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)*への書き込み、または書き換えをします。オールリセット時は、チャンネル「002～1299」までがバンクチャンネルになっています。

なお、受信バンドによるM-CHの区別はありません。

*プログラムスキャン用チャンネルはスキャン範囲の上限周波数と下限周波数の2つの周波数を書き込む必要があります。

◇ M-CHへの書き込みかた

【例】145.520MHzをチャンネル「012」に書き込む場合

- ① [V/M]を数回押して、VFOモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、144Mバンドを選択します。
- ③ [DIAL]を回して、周波数を145.520MHzに設定します。
- ④ [S.MW] (V/M)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
 - M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。
 - ※キーをはなさずに押しつづけると、表示しているM-CHに書き込みますのでご注意ください。
- ⑤ [DIAL]を回して、M-CHを「012」にします。
 - ※「00A/00B～24A/24B」を選択すると、PROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑥ [S.MW] (V/M)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しと、メモリー内容を書き込み、VFOモードに戻ります。
 - ※キーをはなさずに押しつづけると、M-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり、VFOモードになります。(P27)

VFOモードで
145.520MHzに設定

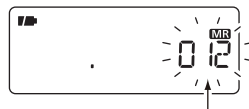


[V/M S.MW SKIP] を長く押して、
セレクトメモリーライト
の状態にする



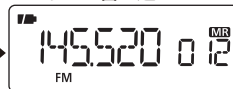
※キーをはなさずに押しつづ
けると、表示している
M-CHに書き込みますので
ご注意ください。

[DIAL]を回して、
M-CH「012」を選択



チャンネル 12

[V/M S.MW SKIP] を長く押して、
メモリーに書き込み



VFOモードに戻る



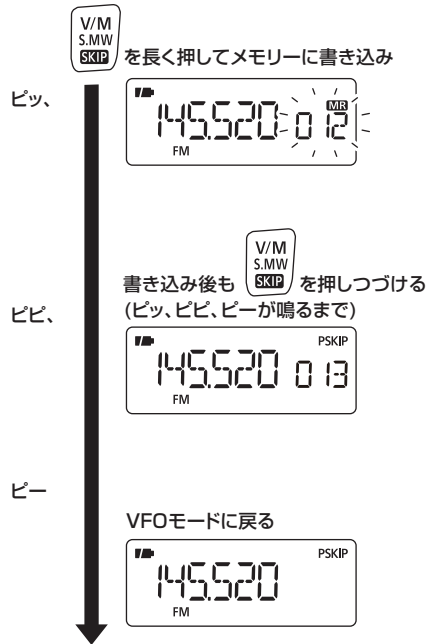
※キーをはなさずに押しつづ
けると、M-CHが1CHだけ
自動的に繰り上がり、VFO
モードになります。



◇ 書き込み後のオートインクリメントについて

左記⑥[S.MW](V/M)を書き込み完了後も押しつづける(ピッ、ピピ、ピーが鳴るまで)とM-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり、VFOモードになります。

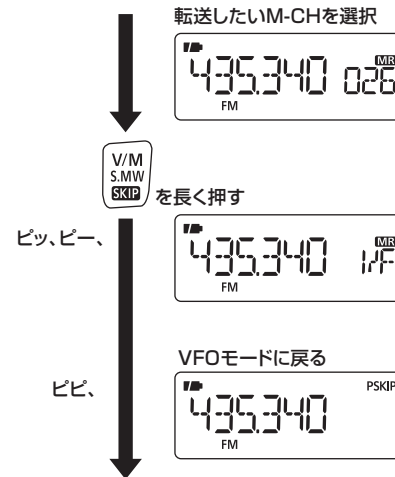
M-CHに順次つづけて書き込みをするときに便利な機能です。



◇ メモリー内容をVFOにコピーして使うには

使用しているM-CHの周辺に移って受信する場合などに便利な機能です。

- ① [V/M]を数回押してメモリーモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、メモリーモード表示にします。
- ③ [DIAL]で希望のM-CHを呼び出します。
- ④ [S.MW](V/M)を長く(ピッ、ピー、ピピと鳴るまで)押します。M-CHの内容をVFOに転送して、VFOモードになります。

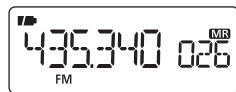


5 メモリーの使いかた

■ メモリー (M-CH/PROGRAM-CH) への書き込みかた (つづき)

◇ メモリー内容をほかのチャンネルへコピーするには

- ① [V/M] を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND] を数回押して、メモリーモード表示にします。
- ③ [DIAL] を回して、コピーしたい M-CH を選択
M-CH を呼び出します。



- ④ [S.MW] (V/M) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押します。

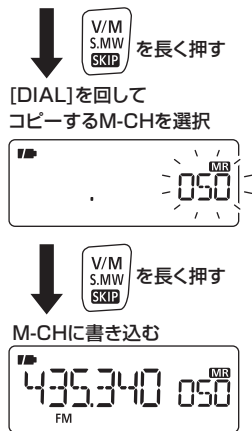
● M-CH 表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。

※ キーをはなさずに、押しつづけると、VFO モードにコピー
します。(※P27)

- ⑤ [DIAL] を回して、コピーしたい M-CH を選びます。

※ [VF] を選択すると、VFO にコピーします。

- ⑥ [S.MW] (V/M) を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押して書き込みます。



※ メモリー内容をほかの M-CH に転送して使うには 33 ページ
をご覧ください。

■ メモリーチャンネル (M-CH) の内容をバンクで編集する

本製品の M-CH は 1300CH (000 ~ 1299) あります。

1300CH に書き込んだ M-CH の内容を 22 個のバンク (A ~ R, T, U, W, Y) に分割して編集できます。

各バンクには、00 ~ 99 (100CH) のチャンネルに割り当てられています。

◇ M-CH とバンクチャンネルの使用例

M-CH の内容	バンクチャンネル	バンクの内容
000 51.000MHz	A00	A 00-99 144MHz帯を編集する
001 145.160MHz		
002 118.125MHz	B00	B 00-99 AIRバンドを編集する
003 145.120MHz		
004 435.340MHz	A01	C 00-99 430MHz帯を編集する
005 145.040MHz		
006 118.200MHz	B01	D 00-99
007 850.480MHz		
008 52.560MHz	C00	E 00-99
009 1.620MHz		
010 50.140MHz	B02	F 00-99
011 433.020MHz		
012 76.500MHz	C01	G 00-99
013 433.560MHz		
014 145.540MHz	A02	H 00-99
015 369.850MHz		
016 127.700MHz	B02	I 00-99
017 85.100MHz		
018 84.700MHz	Y00	J 00-99
019 75.795MHz		
020 434.720MHz	C02	K 00-99
021 146.300MHz		
1299 434.860MHz	A03	L 00-99
		N 00-99
		O 00-99
		P 00-99
		Q 00-99
		R 00-99
		T 00-99
		U 00-99
		W 00-99
		Y 00-99 FM放送バンドを編集する

【ご注意】

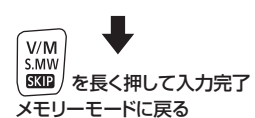
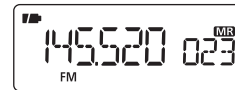
メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。
編集もとのM-CHを変更、または更新すると、メモリーバンクの内容も変更されます。

◇ 編集のしかた

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、チャンネル表示、またはバンク表示にします。
- ③ [DIAL]を回して、バンクで編集するM-CHを選択します。
- ④ [S.MW] (V/M)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
 - M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。
- ⑤ [MODE]を押して、「BANK」項目を選択します。
 - ※ 選択したM-CHをすでに編集している場合は、編集しているバンクとチャンネルを表示します。
- ⑥ [BAND]を数回押して、バンクを選択します。
 - ※ [BAND]を押しながら [DIAL]を回しても選択できます。
- ⑦ [DIAL]を回して、チャンネルを選択します。
 - ※ すでに編集しているバンクのチャンネルを選択することはできません。
- ⑧ [S.MW] (V/M)を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押して、指定したバンクチャンネルを確定し、メモリーモードに戻ります。

バンクの編集

《例》M-CH023をバンクAの
チャンネル01に書き込む



5 メモリーの使いかた

■ メモリー/バンク/スキャン名の使いかた

メモリーに記憶しているすべてのチャンネル、または編集した各バンクや、プログラムスキャンに、名前(ネーム)を入力できます。

◇ メモリー/バンク/スキャン名を入力する

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、メモリーモード表示、または入力したいバンクに設定します。
- ③ [DIAL]を回して、M-CHを選択します。
- ④ [S.MW] (V/M)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
 - M-CH表示部が点滅します。
- ⑤ [MODE]を数回押して、「M NAME」(メモリーネーム)、「B NAME」(バンクネーム)、「S NAME」(スキャンネーム)項目を選択します。
 - メモリーネーム、バンクネーム、スキャンネームの表示画面となり、ネームの1桁目と「MR」表示が点滅します。
 - すでにネームが登録されているときはネームを表示、未登録のときはブランク表示となります。
 - バンクネームの入力画面は、バンクが選択されているときに表示します。
 - スキャンネームの入力画面は、プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)が選択されているときに表示します。

- ⑥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、文字を選択します。
 - ※[DIAL]を時計回りに回すとカーソルを右に、反時計回りに回すとカーソルを左に移動します。
- ⑦ 前記⑥を繰り返して、ネームを入力します。
 - ※ネームは6文字以内で入力できます。
- ⑧ [S.MW] (V/M)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと書き込みます。
 - ※ネームを訂正したいときは、ネームを入れなおしてください。最後に入れたネームが有効となります。
 - ※バンクネームは、バンクごとにネームを入力できますが、バンクチャンネルごとにはネームを入力できません。
 - ※スキャンネームを入力すると、プログラムスキャン選択時に表示します。

● 使用可能文字一覧

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]	[I]	[J]	[K]	[L]	[M]

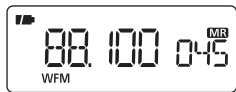
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
[N]	[O]	[P]	[Q]	[R]	[S]	[T]	[U]	[V]	[W]	[X]	[Y]	[Z]

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]			

<	>	*	+	-	,	/		=	_	[スペース]		
[<]	[>]	[*]	[+]	[-]	[,]	[/]	[]	[=]	[_]	[スペース]		

メモリー名の入力

《例》M-CHO45に
「NHK-FM」を入力する



V/M
S.MW
SKIP を長く押す



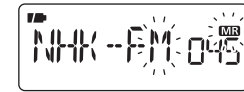
MODE
SCAN
[SCAN] を数回押して
「M NAME」を選択



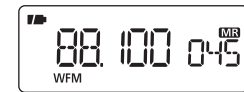
FUNC を押しながら
[DIAL]を回して「N」を選択し、
[DIAL]だけを回して
カーソルを右へ移動



上記の操作を繰り返して
「NHK-FM」を入力



V/M
S.MW
SKIP を長く押して入力完了



◇メモリー名を表示するときは

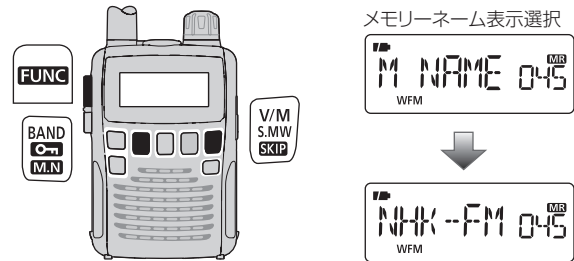
メモリーモードで、周波数表示から名前表示、またはチャンネル表示に切り替えます。

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [FUNC]を押しながら[M.N](BAND)を押すごとに、「B NAME」、「M NAME」、「CH-000」(チャンネル表示)、「145.000」(周波数表示)を切り替えます。

- B NAME :バンクを選択しているとき、バンク名を表示します。
- M NAME :メモリー名を表示します。
- CH-000 :M-CH番号を周波数表示部に表示します。
- 周波数表示 :メモリーに書き込んでいる周波数を表示します。

※「B NAME」、「M NAME」を選択すると、約1秒後に名前を表示します。

名前を書き込んでいないときは表示されず、周波数表示になります。



5 メモリーの使いかた

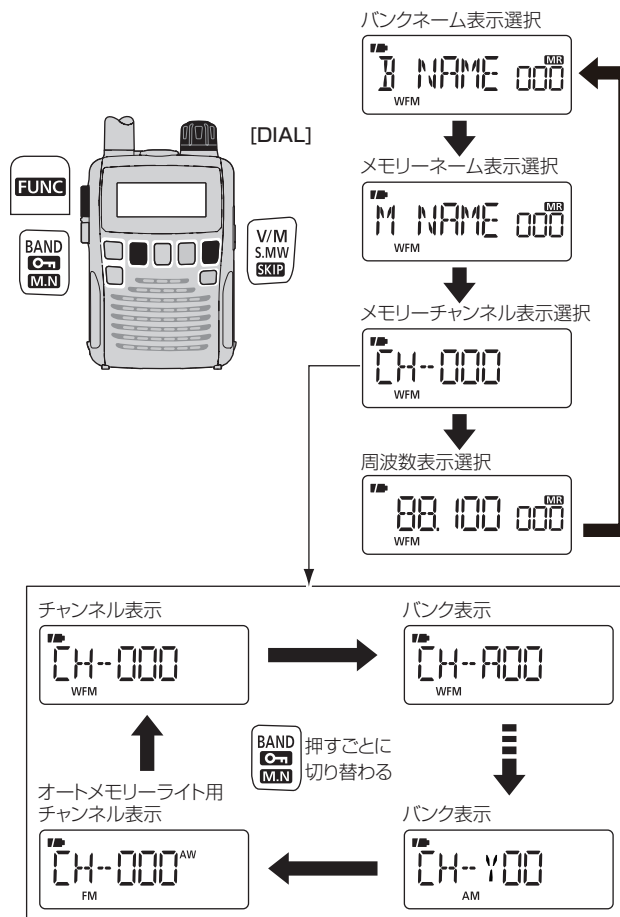
◇ チャンネル表示を切り替えるには

チャンネル表示は、記憶したM-CH、編集したバンクとチャンネル、オートメモリーライト用チャンネルの周波数表示をチャンネル番号で表示します。

書き込んだすべてのM-CHを表示し、スキップチャンネルも表示します。

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [FUNC]を押しながら[BAND]を数回押して、「CH-000」（チャンネル表示）にします。
- ③ チャンネル表示状態で、[BAND]を押すごとに、チャンネル表示を切り替えます。

※ 各チャンネル表示選択時に、[DIAL]を回すとそれぞれに選択しているチャンネルを選択できます。



■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHとPROGRAM-CHを消去します。いったん消去したM-CHとPROGRAM-CHの内容は、復活できないのでご注意ください。なお、すべてのPROGRAM-CHを消去するとプログラムスキャンができません。

◇メモリー内容を消去する

- ① [V/M]を数回押し、メモリーモード、またはVFOモードを選択し、[S.MW] (V/M)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライト状態にします。
 - メモリー表示部が点滅します。
 - ② [DIAL]を回して、消去したいM-CHを選択します。
 - ③ [MODE]を数回押し、[CLEAR]項目を選択します。
 - ④ [S.MW] (V/M)を長く(ピッ ピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を消去します。
 - ⑤ 消去後、[V/M]を押すと、①で選択したときの表示に戻ります。

なお、①で選択したM-CHを消去したときは、ブランク表示になります。
- ※ オートメモリーライト用チャンネルのクリア操作は41ページを参照してください。

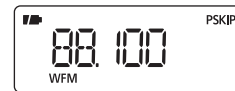
【メモリー内容をほかのM-CHに転送して使うには】

M-CHの内容をほかのM-CHに転送できます。上記のメモリークリア操作で手順④まで進みます。
[DIAL]を回して、転送したいM-CHを選択し、[S.MW] (V/M)を長く(ピッ ピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を転送します。

メモリーの消し方

《例》M-CH23を消去する

VFOモード



V/M
S.MW
SKIP を長く押す



[DIAL]を回して
M-CH23を選択する



MODE
SCAN
FSCAN を数回押し
「CLEAR」を選択



V/M
S.MW
SKIP を長く押し
て消去



V/M
S.MW
SKIP を押し
て
VFOモードに戻る



【ご参考】

手順②のあと、[FUNC]を押しながら[V/M]を長く押ししても、M-CHを消去できます。

6

スキヤンのしかた

■ スキヤンについて

スキヤンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動で切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

◇ 各モードのスキヤンについて

● VFOモードのとき

スキップする周波数は、「**PSKIP**」を指定します。(☞P39)
プログラムスキヤン用チャンネルは、上限周波数と下限周波数の2CHを書き込んでください。(☞P26)

※書き込んでいないと、プログラムスキヤンは動作しません。

● メモリーモードのとき

「**PSKIP**」または「**SKIP**」を指定しているM-CHはスキップします。(☞P41)

M-CHは2CH以上書き込んでください。(☞P26)

※設定していないと、メモリースキヤンは動作しません。

◇ プログラムスキヤン/プログラムリンクスキヤンについて

プログラムスキヤン/プログラムリンクスキヤン時は、PROGRAM-CHに書き込んだ内容でスキヤンします。

また、書き込んだ内容は、書き換えできます。

[S.MW](V/M)を長く押したあと、[BAND]を数回押して項目を選択し、[DIAL]を回して内容を選択、再度[S.MW](V/M)を長く押すと書き換えできます。

編集できる内容は、「**TS**」(チューニングステップ)/「**MODE**」(受信モード)/「**ATT**」(アッテネーター)です。

※ブランクを選択すると、VFOモードの設定条件にしたがって動作します。

◇ VFOスキヤン(☞P38、P39)

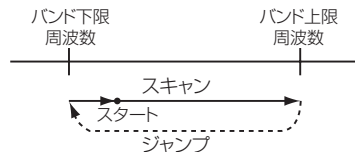
● ALL(フルスキヤン)

すべての受信周波数範囲をスキヤンします。



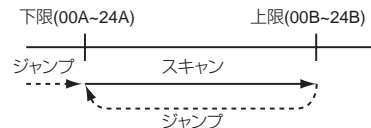
● BAND(バンドスキヤン)

表示している運用バンドの周波数範囲をスキヤンします。



● PROG 0~24(プログラムスキヤン)

プログラムスキヤン用チャンネル(PROGRAM-CH)に書き込んだ周波数範囲をスキヤンします。

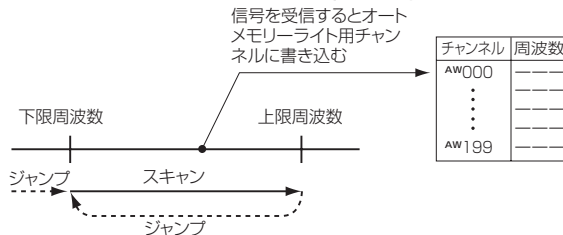


● P-LINK0~9(プログラムリンクスキヤン)

EXPAND SETモードの「**P-LINK**」(プログラムスキヤンのリンク設定)(☞P59)で指定したプログラムスキヤンを連続してスキヤンします。

◇ VFOスキャン

● オートメモリーライトスキャン(☞P40)



スキャン中に信号を受信すると、その周波数をオートメモリーライト用チャンネル(AW000～AW199)へ自動的に順次書き込みます。

◇ メモリースキャン(☞P42)

- **M-ALL**(フルメモリースキャン)
すべてのM-CHをスキャンします。
- **B-ALL**(フルバンクスキャン)
すべてのバンクをスキャンします。
- **BANK-A～R, T, U, W, Y**(バンクスキャン)
指定したバンクのM-CHをスキャンします。
- **B-LINK**(バンクリンクスキャン)
EXPAND SETモードの「**B-LINK**」(バンクのリンク設定)(☞P58)で指定したバンクを連続してスキャンします。

◇ スケルチの調整

通常スケルチレベルは「**AUTO**」にしていますが、受信信号の強さに応じて、スキャンが一時停止するように調整できます。

- スキャン動作中に「**SQL**」を押しながら「**DIAL**」を回すと、スケルチレベルの調整ができます。(☞P15)
スケルチ調整が終わるとスキャンが再スタートします。

◇ スキャン中の「**DIAL**」操作について

- スキャンをスタートするとアップスキャンを開始しますが、スキャン中に「**DIAL**」を回すと、回した方向にアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに、「**DIAL**」を回すと即時再スタートします。

◇ スキャン中のステップについて

フルスキャン/バンドスキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、バンドごとに設定しているチューニングステップ(☞P21)で動作します。

※プログラムスキャンは、PROGRAM-CHに設定したステップでスキャンします。

◇ スキップ機能について

すべてのスキャンでスキップ(必要のないM-CHをスキャンから除外する)指定ができます。(☞P39, P41)

6 スキャンのしかた

◇ 受信モード(電波型式)について

- フルスキャン/バンドスキャン時は、VFOモードで設定している電波型式で動作します。
- プログラムスキャン/メモリスキャン時は、メモリーされている電波型式で動作します。

◇ 信号を受信すると

- 信号を受信して、約10秒(初期設定値)経過すると、自動的に再スタートします。
また、途中で信号がなくなると、約2秒後(初期設定値)に再スタートします。
- 上記のタイマーは、EXPAND SETモードの「PAUSE」(スキャン一時停止タイマーの設定)(P54)、「RESUME」(スキャン再スタートタイマーの設定)(P54)で変更できます。

◇ スキャンストップ時のピープ音設定

信号を受信してスキャンが一時停止すると、ピープ音が鳴るように、EXPAND SETモードの「STOP B」(スキャン停止時ピープ音の設定)(P54)で設定できます。

◇ スキャンネームについて

PROGRAM-CH(* * A/* * B)ごとに、スキャンネームを登録できます。(P30、P31)
登録すると、スキャン範囲を選択するときにスキャンネームを表示します。(P39)

◇ TRAIN(空線キャンセラー)機能について

通話していない鉄道無線で聞こえる空線信号を検出できます。TRAIN1またはTRAIN2を設定したときに空線信号を受信すると、受信音をミュートします。

● TRAIN1

単一周波数の空線信号(P37、P57)を検出します。

● TRAIN2

1500HzのシングルトーンとMSK制御信号が交互に切り替わる信号を検出します。

TRAIN2を設定したときに検出する空線信号の周波数は、固定です。

※TRAIN(空線キャンセラー)機能の設定については、57ページをご参照ください。

※スキャン中に信号を検出すると、「PAUSE」(スキャン一時停止タイマーの設定)(P54)の設定に関わらず、スキャンを再スタートします。

◇ MSKキャンセラー機能について

MCA無線で聞こえるMSK制御信号を検出できます。

※MSKキャンセラー機能の設定については、37ページをご覧ください。

● MSKを設定したときにMSK制御信号を受信すると、受信音をミュートします。

● スキャン中にMSK制御信号を検出すると、「PAUSE」(スキャン一時停止タイマーの設定)(P54)の設定に関わらず、スキャンを再スタートします。

◇ TRAIN1 空線キャンセラー機能を設定する

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにし、[DIAL]を回して、「EXPAND」(機能拡張の設定)を選択します。
- ② [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、「CANCEL」(空線キャンセラー機能の設定)を選択します。
- ④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「TRAIN1」を選択します。
- ⑤ [DIAL]を回して、「TFRQ」(空線信号周波数の設定)を選択します。
 - 空線信号の周波数(2280Hz)を表示します。
- ⑥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、空線信号の周波数を設定します。
 - 設定範囲：300Hz～3000Hz(10Hzステップ)
 - ※TRAIN1空線信号の周波数は、M-CHごとに指定できます。
- ⑦ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除して空線キャンセラー機能による受信状態になります。

空線信号周波数の設定



【ご参考】

空線信号の周波数(2280Hz)を±50Hzほど可変することにより、空線キャンセラー機能の効果が向上することがあります。

◇ TRAIN2/MSKキャンセラー機能を設定する

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにし、[DIAL]を回して、「EXPAND」(機能拡張の設定)を選択します。
- ② [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、「CANCEL」(空線キャンセラー機能の設定)を選択します。
- ④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「TRAIN2」、または「MSK」を選択します。
- ⑤ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除して空線キャンセラー/MSKキャンセラー機能による受信状態になります。

空線キャンセラー機能の設定

MSKに設定



MSK機能による受信状態



【ご注意】

- 空線キャンセラー/MSKキャンセラー機能は受信信号が弱いときや、ノイズが多いときなどは正しく動作しないことがあります。
- 空線キャンセラー機能、MSKキャンセラー機能はすべての空線信号またはMSK信号を検出するものではありません。MSK信号は1200bpsのMSK信号を検出することができます。周波数がズレた場合などは検出できないこともあります。

6 スキャンのしかた

■ VFOモードのスキャン

VFOモードのスキャンには、フルスキャン、バンドスキャン、プログラムリンクスキャン、プログラムスキャンがあります。
(※P34)

※M-CHで「PSKIP」を指定している周波数は、スキップしてスキャンします。

◇ オールリセット時のPROGRAM-CHについて

プログラムスキャンは、PROGRAM-CHの「00A/00B」～「24A/24B」に書き込んだ周波数範囲をスキャンします。オールリセット時、設定されているPROGRAM-CHの内容は、次のとおりです。

「00A」: 0.100MHz / 「00B」: 1300.000MHz

「01A」: 144.000MHz / 「01B」: 146.000MHz

「02A」: 430.000MHz / 「02B」: 440.000MHz

※「03A/03B～24A/24B」はオールリセット時、何も記憶されていません。

PROGRAM-CHへの書き込みについては26ページを参照してください。

◇ VFOスキャンの操作

- ① [V/M]を数回押して、VFOモードにします。
- ② [SCAN] (MODE)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ③ [DIAL]を回して、VFOスキャンの種類を選択します。

- ALL : フルスキャン
- BAND : バンドスキャン
- P-LINK0～9 : プログラムリンクスキャン
- PROG 0～24 : プログラムスキャン

フルスキャンの選択



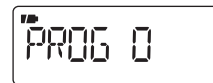
バンドスキャンの選択



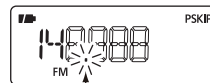
プログラムリンクスキャンの選択



プログラムスキャンの選択



- ④ [SCAN] (MODE)を押すと、スキャンを開始します。



点滅

※スキャン中に[BAND]を押すと、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えます。

プログラムリンクスキャンの場合は、リンクしているプログラムスキャン範囲を切り替えます。

※スキャン中に[DIAL]を回すとアップスキャン/ダウンスキャンを切り替えます。

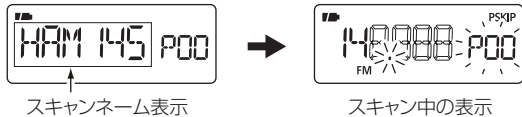
⑤ [SCAN] (MODE) を押すと、スキャン動作を解除します。

【スキャン名前を書き込んだとき】

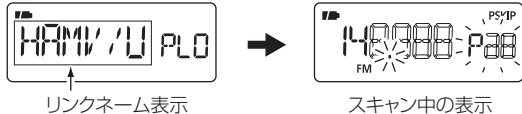
スキャン名前を書き込む (P30) と、プログラムスキャンの選択時にスキャン名を表示します。

※プログラムスキャン中、スキャン名は表示しません。

※プログラムリンクスキャンに名前を書き込む (P59) と、プログラムリンクスキャンの選択時にスキャン名を表示します。



プログラムリンクスキャン選択中の表示



◇ VFOモードのPSKIP設定

VFOスキャン時に、登録したスキップ周波数をスキップするかしないかを設定します。

VFOモードで、[FUNC] を押しながら [SKIP] (V/M) を押すごとに、[PSKIP] 表示が消灯/点灯します。

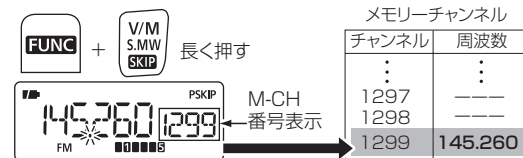
- PSKIPが点灯 : VFOスキャン時に、登録したスキップ周波数をスキップします。
- PSKIPが消灯 : VFOスキャン時に、登録したスキップ周波数をスキップしません。すべての周波数をスキャンします。



【VFO スキャン中の PSKIP 登録について】

VFOスキャン中で、受信した不要な周波数をM-CHの最後尾から順番に登録できます。

VFOスキャンで、[FUNC] を押しながら [SKIP] (V/M) を長く (ピッ、ピピと鳴るまで) 押すと、M-CHの最後尾(1299CH)から順番に書き込みます。

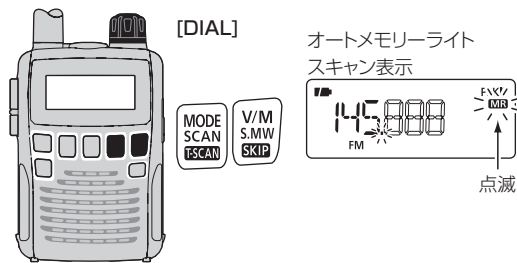


6 スキャンのしかた

■ オートメモリーライトスキャンのしかた

オートメモリーライトスキャンは、スキャン中に受信した周波数を、自動的にオートメモリーライト用チャンネル(AW000～AW199)へ書き込みます。

- ① [V/M]を数回押して、VFOモードにします。
- ② [SCAN] (MODE)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ③ [DIAL]を回して、VFOスキャンの種類を選択します。
- ④ [SCAN] (MODE)を押して、スキャンを開始します。
- ⑤ スキャン中に[V/M]を押すと、オートメモリーライトスキャンを開始します。
 - 「MR」表示が点滅します。



※AW000～AW199までのすべてのオートメモリーライト用チャンネルが書き込まれているときは、オートメモリーライトスキャンに切り替えできません。

【信号を受信すると】

信号を受信すると、約5秒間一時停止して、受信した周波数をオートメモリーライト用チャンネルの最下位(AW000)へ自動的に書き込みます。

書き込みが終わると自動的に再スタートします。

※書き込むときに、「ピピッ」とピーブ音が鳴ります。

※それ以前に書き込んだオートメモリーライト用チャンネルがあれば、順次上位チャンネルにシフトします。

※すべてのオートメモリーライト用チャンネル(200CH)を書き込んだときは、スキャンを解除します。

- ⑥ [V/M]を押すと、オートメモリーライトスキャンを解除します。

信号を受信してスキャンが一時停止する



一時停止が約5秒間つづくと、「ピピッ」とピーブ音がなり、オートメモリーライト用チャンネルに書き込みます。

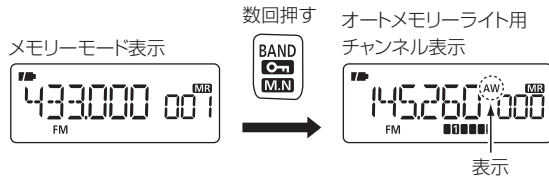
オートメモリーライト用チャンネル

チャンネル	周波数
AW000	145.260
AW001	144.740
AW002	144.100
AW003	----
⋮	----
AW199	----

- ⑦ [SCAN] (MODE)を押すと、スキャンを解除します。

◇ オートメモリーライト用チャンネルの呼び出し

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。(「AW」が表示します)
- ③ [DIAL]を回して、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。



◇ オートメモリーライト用チャンネルのクリア操作

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、オートメモリーライト用チャンネル表示を選択します。(「AW」が表示します)
- ③ [FUNC]を押しながら[S.MW](V/M)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しすと、すべてのオートメモリーライト用チャンネルをクリアします。

※1CHごとにクリアできません。

オートメモリーライト用のCHは、「メモリー内容をほかのチャンネルへコピーするには」(P28)の手順④からの操作をして、M-CHにコピーすることをおすすめします。

■ スキップチャンネルの指定と解除のしかた

スキャン時に、スキャンの対象からはずしたいチャンネル/周波数を飛び越す(スキップ)ように指定します。

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、メモリーモード表示を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、スキップするCH、またはスキップを解除するCHを選択します。
- ④ [FUNC]を押しながら[SKIP](V/M)を押すごとに、「SKIP」→「P SKIP」→「OFF(消灯)」と表示が切り替わります。

- SKIP : 指定したM-CHをスキップします。
- PSKIP : 指定したM-CHをスキップします。
※VFOスキャン時は、指定したM-CHの周波数をスキップします。
- OFF : 指定したM-CHは、スキップを解除してスキャンの対象になります。

※メモリースキャン時、信号を受信してスキャンが一時停止したときに、そのM-CHをメモリースキャンの対象からはずしたい場合は、[FUNC]を押しながら[SKIP](V/M)を押して、スキップを指定することもできます。

6 スキャンのしかた

■ メモリーモードのスキャン

メモリーモードのスキャンは大きく分けて、メモリースキャンとメモリーバンクスキャンがあります。

※メモリーバンクスキャンは、メモリーバンクに記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出す機能です。

※「SKIP」または「PSKIP」を指定しているM-CHIは、スキップしてスキャンします。

※M-CHIは2CH以上書き込んでください。

◇ メモリースキャンの操作

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、メモリーモード表示を選択します。
- ③ [SCAN] (MODE)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、メモリースキャン項目を表示します。
- ④ [DIAL]を回して、メモリースキャンの種類を選択します。

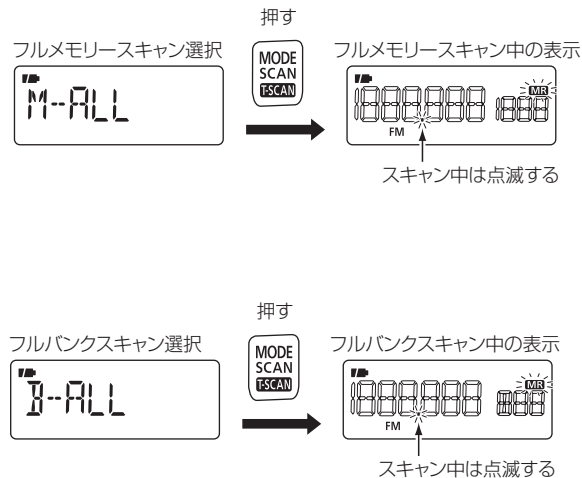
- M-ALL : フルメモリースキャン
- B-ALL : フルバンクスキャン
- B-LINK : バンクリンクスキャン
- BANK-A* : バンクスキャン

*設定しているバンクを表示します。

※バンクスキャン中に[BAND]を押して、バンクを切り替えることができます。

※バンクにバンクネームが指定されている場合、バンクネームが表示されます。

- ⑤ [SCAN] (MODE)を押して、スキャンを開始します。
- ⑥ [SCAN] (MODE)を押すと、スキャンを解除します。

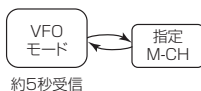


■ プライオリティースキャンについて

プライオリティースキャンは、通常の受信をしながら特定の周波数/M-CH(プライオリティーCH)信号の有無を確認できる機能です。

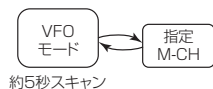
●VFO周波数とM-CH(☞P44)

VFO周波数を受信しながら、指定M-CH/バンクCH/オートメモリーライト用CHを受信(監視)します。



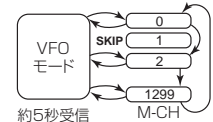
●VFOスキャンとM-CH(☞P45)

VFOスキャンをしながら、指定M-CH/バンクCH/オートメモリーライト用CHを受信(監視)します。



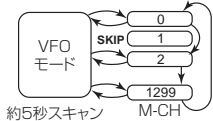
●VFO周波数とメモリスキャン(☞P46)

VFO周波数を受信しながら、スキャン中のM-CHまたはバンクCHを順番に受信(監視)します。



●VFOスキャンとメモリスキャン(☞P47)

VFOスキャンをしながら、スキャン中のM-CHまたはバンクCHを順番に受信(監視)します。



◇ プライオリティースキャン機能の使いかた

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードに入ります。
- ② [DIAL]を回して、「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)を選択します。
- ③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」または「BELL」を選択します。
 - OFF : 動作をしません。(初期設定)
 - ON : 信号を受信すると、スキャンが一時停止する、プライオリティースキャン動作になります。
 - BELL : 信号を受信すると、“ピロピロピ”とベル音を鳴らして「(●)」(ベルマーク表示)が点滅する、プライオリティースキャン動作になります。



プライオリティースキャンの設定

ON選択時

- ④ [SET] (TS)を押して、SETモードを解除します。

●「[PRIO]」表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。

※一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(☞P54)



[PRIO]点灯

- ⑤ [SET] (TS)を押すと、プライオリティースキャンを解除します。

7 プライオリティースキャンのしかた

■ VFO周波数とM-CH

VFO周波数を受信しながら、特定のM-CH、またはバンクCH、オートメモリーライト用CHを約5秒に1回受信します。

- ① VFOモードで受信する周波数を設定します。(※P16)
- ② [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
※ [BAND]を数回押して、メモリーモード表示またはバンク表示、オートメモリーライト用CH表示を選択します。
- ③ [DIAL]で、受信したいM-CHを指定します。
- ④ [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
- ⑤ [DIAL]を回して、「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)を選択します。
- ⑥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」または「BELL」を選択します。
- ⑦ [SET] (TS)を押します。
 - 「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。
- ⑧ [SET] (TS)を押すと、プライオリティースキャンを解除します。

〈プライオリティースキャン動作〉

● ON選択時

M-CH/バンクCH/オートメモリーライト用CHの信号を受信すると、その画面で一時停止します。



VFOモード時の画面



M-CHを受信すると「PRIO」が点滅

● BELL選択時

M-CH/バンクCH/オートメモリーライト用CHの信号を受信すると、ベル音を鳴らしてVFO画面で「(●)」(ベルマーク表示)が点滅します。



約5秒VFO周波数受信



5秒に1回 M-CHを受信

【ご参考】

M-CH、バンクCHまたはオートメモリーライト用CHを指定してから、VFO周波数を設定しても同様に動作します。

■ VFOスキャンとM-CH

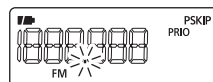
VFOスキャンをしながら、特定のM-CH、またはバンクCH、オートメモリーライト用CHを約5秒に1回受信します。

- ① [V/M]を数回押し、メモリーモードにします。
※ [BAND]を数回押し、メモリーモード表示またはバンク表示、オートメモリーライト用CH表示を選択します。
- ② [DIAL]で、受信したいM-CHを指定します。
- ③ [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)を選択します。
- ④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」または「BELL」を選択し、[SET] (TS)を押しします。
●「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。
- ⑤ [SCAN] (MODE)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押しします。
- ⑥ [DIAL]を回して、VFOスキャンの種類を選択します。
(※P38)
- ⑦ [SCAN] (MODE)を押しします。
●VFOスキャンとM-CHによる、プライオリティースキャンを開始します。
- ⑧ [SET] (TS)を押すと、プライオリティースキャンとVFOスキャンを解除します。

〈プライオリティースキャン動作〉

● ON選択時

M-CH/バンクCH/オートメモリーライト用CHの信号を受信すると、その画面で一時停止します。



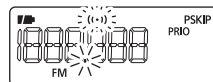
VFOスキャン時の画面



M-CHを受信すると「PRIO」が点滅

● BELL選択時

M-CH/バンクCH/オートメモリーライト用CHの信号を受信すると、ベル音を鳴らしてVFO画面で「(●)」(ベルマーク表示)が点滅します。



約5秒VFOスキャン



5秒に1回 M-CHを受信

7 プライオリティースキャンのしかた

■ VFO周波数とメモリスキャン

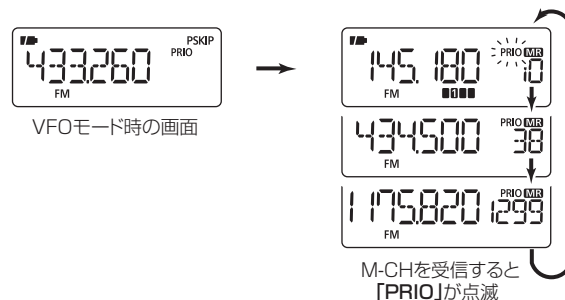
VFO周波数を受信しながら、特定のM-CHまたはバンクCHを約5秒に1回順番に受信します。

- ① VFOモードで受信する周波数を設定します。(※P16)
- ② [V/M]を数回押し、メモリーモードにします。
※[BAND]を数回押し、メモリーモード表示またはバンク表示を選択します。
- ③ [SCAN] (MODE)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ④ [DIAL]を回して、メモリスキャンのスキャン範囲を選択します。(※P42)
- ⑤ [SCAN] (MODE)を押すと、メモリスキャンまたはメモリーバンクスキャンを開始します。
- ⑥ [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)を選択します。
- ⑦ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」または「BELL」を選択します。
- ⑧ [SET] (TS)を押します。
 - 「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。
- ⑨ [SET] (TS)を押すと、プライオリティースキャンとメモリスキャンを解除します。

〈プライオリティースキャン動作〉

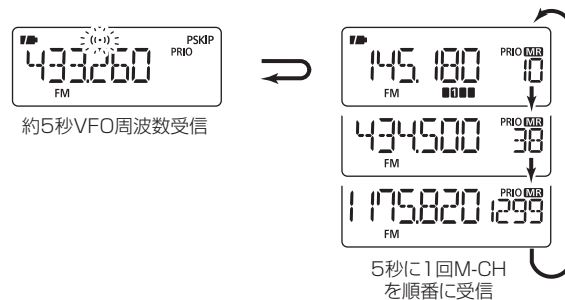
● ON選択時

M-CH/バンクCHの信号を受信すると、その画面で一時停止します。



● BELL選択時

M-CH/バンクCHの信号を受信すると、ベル音を鳴らしてVFO画面で「(・)」(ベルマーク表示)が点滅します。



■ VFOスキャンとメモリースキャン

VFOスキャンをしながら、特定のM-CHまたはバンクチャンネルを約5秒に1回順番に受信します。

① [V/M]を数回押し、メモリーモードにします。

※[BAND]を数回押し、メモリーモード表示またはバンク表示を選択します。

② [SCAN] (MODE)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。

③ [DIAL]を回して、メモリースキャンの種類を選択します。
(※P42)

④ [SCAN] (MODE)を押すと、メモリースキャンまたはメモリーバンクスキャンを開始します。

⑤ [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)を選択します。

⑥ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」または「BELL」を選択し、[SET] (TS)を押します。

●[PRIO]表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。

⑦ [SCAN] (MODE)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、[DIAL]を回して、VFOスキャンの種類を選択します。
(※P38)

⑧ [SCAN] (MODE)を押します。

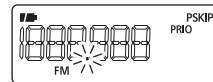
●VFOスキャンとメモリースキャンによる、プライオリティースキャンを開始します。

⑨ [SET] (TS)を押すと、VFOスキャンとメモリースキャンによる、プライオリティースキャンを解除します。

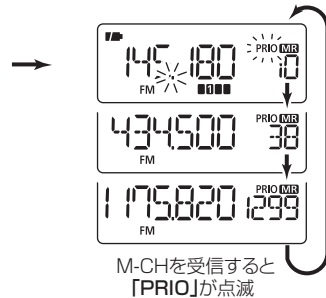
〈プライオリティースキャン動作〉

● ON選択時

M-CH/バンクCHの信号を受信すると、その画面で一時的に停止します。



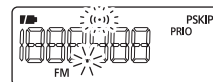
VFOスキャン時の画面



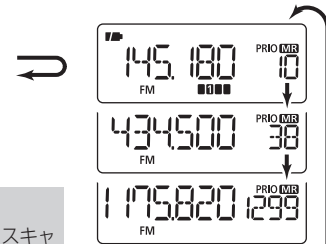
M-CHを受信すると「PRIO」が点滅

● BELL選択時

M-CH/バンクCHの信号を受信すると、ベル音を鳴らしてVFO画面で「(・)」(ベルマーク表示)が点滅します。



約5秒VFOスキャン



5秒に1回M-CHを順番に受信

【ご注意】

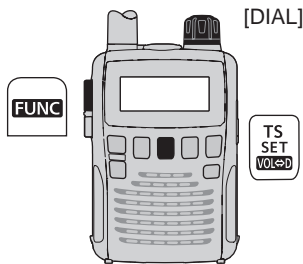
最初にメモリースキャン(バンクスキャン)を開始してください。
※VFOスキャンを最初に開始すると、両スキャンは動作できません。

■ SETモードの設定方法

初期設定されている受信条件を、受信する状況やお好みの使いかたに応じて、変更するモードです。

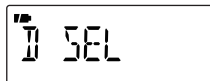
なお、EXPAND(拡張機能)のSETモードにより、さらに多様な受信条件を設定することができます。

各項目で変更できる受信条件を次のページから記載しておりますので、このページと併せてご覧ください。

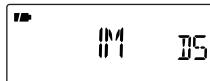


◇ SETモードにする

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(設定項目を表示します)
- ② [DIAL]を回して、設定項目を選択します。(以下は「D SEL」の場合)



- ③ 設定内容が表示されます。



- ④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。
※つづけて設定するときは、②～④を繰り返し操作してください。



- ⑤ [SET] (TS)を押してSETモードを解除します。



◇ EXPAND(拡張機能)の選択

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。(設定項目を表示します。)
- ② [DIAL]を回し、「EXPAND」の設定項目を選択します。



- ③ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」を選択します。



※「OFF」を選択するとEXPAND(拡張機能)SETモードの項目は表示されません。

- ④ [DIAL]を回して、拡張設定項目を選択します。
- ⑤ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。
- ⑥ [SET] (TS)を押してSETモードを解除します。

■ 設定項目の一覧表

初期設定されている受信条件を、受信する状況やお好みの使用いかたに応じて、変更するためのモードです。

◇ SETモード項目

SETガイド	項目名称	ページ
D SEL	ダイヤルセレクトの設定	P50
PRIO	プライオリティスキャンの設定	P50
BEEP	ビーブ音(操作音)の設定	P50
BEEPLV	ビーブ音(操作音)レベルの設定	P51
LIGHT	ディスプレイのバックライトの設定	P51
P SAVE	パワーセーブ機能の設定	P51
ANT	アンテナ切り替えの設定	P52
EXPAND	拡張機能のON/OFFの設定	P52

【項目一覧表の「*」マークについて】

※VFOモード時は、バンドごとに設定できます。

※メモリーモード時は、すべてのM-CHに独立して設定を記憶できます。

1「AFフィルターの設定」は、「」マークの条件に加えて、受信モード(AM/FM/WFM)ごとにも設定できます。

* 「空線信号周波数の設定」は、「空線キャンセラー機能の設定」で「TRAIN1」が選択されているときに設定できます。

◇ EXPAND SETモード項目

SETガイド	項目名称	ページ
LOCK	キーロック機能の設定	P52
SPEED	ダイヤルスピード機能の設定	P53
MONI	モニター(SQL)ホールド機能の設定	P53
AP OFF	オートパワーオフ機能の設定	P53
PAUSE	スキャン一時停止タイマー設定	P54
RESUME	スキャン再スタートタイマーの設定	P54
STOP B	スキャン停止時ビーブ音の設定	P54
OFFSET	オフセット周波数の設定*	P55
DUP	デュプレックスモード設定*	P55
TSQL	トーンスケルチ受信モードの設定*	P56
TONE	CTCSSトーン周波数の設定*	P56
CODE	DTCSコードの設定*	P57
DTCS P	DTCS位相反転機能の設定*	P57
CANCEL	空線キャンセラー機能の設定*	P57
TFRQ★	空線信号周波数の設定*	P58
VSC	ボイススケルチコントロール機能の設定*	P58
B-LINK	バンクリンク機能の設定	P58
P-LINK	プログラムスキャンのリンクの設定	P59
CONT	ディスプレイのコントラストの設定	P60
AF FIL	AFフィルターの設定*1	P60
CHARGE	通常充電後の充電方法の設定	P60
CIVADR	CI-Vのアドレスの設定	P61
CIVBAU	CI-Vのボーレートの設定	P61
CIVTRN	CI-Vのトランシーブの設定	P61

8 SET モードの設定

■ 設定項目の詳細について

ダイヤルセレクトの設定	DIAL SEL
周波数を大きく変える操作で、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回したときの、周波数ステップを設定します。	
● 100K : 100kHzステップにします。	100K DS
● 1M : 1MHzステップにします。 (初期設定)	1M DS
● 10M : 10MHzステップにします。	10M DS

プライオリティスキャンの設定	PRIO
プライオリティスキャンの“ON/OFF”およびプライオリティーベルを設定します。	
● OFF : 動作しません。(初期設定)	OFF Pr
● ON : プライオリティスキャンをします。	ON Pr
● BELL : プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、ベル音を鳴らし、ベルマーク「(●)」表示の点滅で受信を知らせます。	

ビープ音(操作音)の設定	BEEP
キーが正しく操作されたかどうかを知らせるビープ音を設定します。	
● ON : ビープ音を鳴らします。 (初期設定)	ON BP
● OFF : 鳴りません。	OFF BP

ビープ音(操作音)レベルの設定

BEEP LV

キーが正しく操作されたかどうかを知らせるビープ音の音量を設定します。

前項目「ビープ音(操作音)の設定」が「ON」のとき有効です。

- **VOLUME** : 音量に比例したビープ音を鳴らします。
(初期設定)
 - **-----** : 音量に関係なく、個別にビープ音の音量を調整します。
- 000000 [DIAL]を回して音量を調整します。

VOLUME LV

000--- LV

ディスプレイのバックライトの設定

LIGHT

キー操作時にディスプレイのバックライトを点灯するか、しないかを設定します。

- **AUTO2** : キーや[DIAL]を操作したときに、自動で点灯します。
なお、約5秒操作しない状態がつづく、消灯します。
※外部電源使用時は常時点灯します。
- **AUTO1** : AUTO2と同様に動作します。(初期設定)
※外部電源使用時でも常時点灯しません。
- **ON** : 常時点灯します。
- **OFF** : 点灯しません。

AUTO1 LI

AUTO2 LI

パワーセーブ機能の設定

P SAVE

電池の電流消費を抑え、電池を長持ちさせるためのパワーセーブ機能を設定します。

- **AUTO** : 無信号状態が約5秒つづく
と約50msec:500msecの比率でパワーセーブ機能を開始し、さらに無信号の状態が60秒つづく
と約50msec:1secの比率で動作します。
(初期設定)
- **OFF** : パワーセーブが動作しません。

AUTO PS

OFF PS

8 SETモードの設定

アンテナ切り替えの設定

ANT

受信用のアンテナを付属の外部アンテナから、内蔵のバーアンテナ、または接続されたイヤホンアンテナとして使用するイヤホンアンテナに切り替えできます。

※イヤホンアンテナに切り替えた場合でも、外部アンテナで受信できます。

- **EXT** : 付属の外部アンテナで受信します。(初期設定)

EXT ANT

- **BAR** : 内蔵のバーアンテナで受信します。

※AMモードに設定時、BC(1M)バンドでAMラジオ放送の周波数帯(0.495～1.620MHz)を選択しているときだけ表示します。

BAR ANT

- **EAR** : イヤホンアンテナで受信します。

※AMラジオ放送の周波数帯以外の周波数を選択しているときに表示します。

拡張機能の ON/OFF の設定

EXPAND

セットモードの拡張項目を表示するか、しないかを設定します。

- **OFF** : 初期項目だけを表示する。(初期設定)

OFF E%

- **ON** : 初期項目と拡張項目を表示する。

ON E%

※拡張機能(EXPAND)を「ON」にすると、下記以降の項目が表示され、設定できます。

キーロック機能の設定

LOCK

[DIAL]およびキーの操作を無効にするキーロック機能を設定します。

- **NORMAL** : 音量設定の[▲]/[▼]、[SQL]を除くキーをロックします。(初期設定)

NORMAL LK

- **NO SQL** : [SQL]を除くキーをロックします。

NO SQL LK

- **NO VOL** : 音量設定の[▲]/[▼]を除くキーをロックします。

- **ALL** : すべてのキーをロックします。

ダイヤルスピードの設定

SPEED

[DIAL]を速く回したとき、周波数の変化をスピードアップするか、しないかを設定します。

- ON : スピードアップします。
(初期設定)
- OFF : [DIAL]を回す速度に合わせません。

モニター (SQL) ホールド機能の設定

MONI

[SQL]の機能(スケルチを開いて受信をする)を、キーを押しているあいだ動作させるか、1回押すごとに“ON/OFF”させるかを設定します。

- PUSH : 押しているあいだだけスケルチを開きます。
(初期設定)
- HOLD : 1回押すとモニターを“ON”にし、もう一度押すと、“OFF”にします。

オートパワーオフ機能の設定

AP OFF

自動的に電源を“OFF”するオートパワーオフ機能を設定します。キー操作のない状態が一定時間(下記の設定時間)つづくと、自動的に電源を切ります。

- OFF : オートパワーオフ機能が動作しません。(初期設定)
- 30~120 : 30分/60分/90分/120分後に電源を切ります。
- BUSY : 信号を受信しない状態が3分間つづくと電源を切ります。

※ オートパワーオフで電源が切れても、機能は「ON」の状態です。この機能を解除するには、「OFF」に設定してください。

8 SETモードの設定

スキャン一時停止タイマーの設定

PAUSE

スキャン中に信号を受信すると、一定時間スキャンを一時停止するタイマーを設定します。

設定時間だけ受信をつづけ、設定時間になると再スタートします。

- **2~20** : 2秒~20秒のタイマーが2秒ごとに設定できます。

なお、一時停止中に信号がなくなると、「スキャン再スタートタイマー」の条件で再スタートします。

(初期設定値：10秒)

- **HOLD** : 信号を受信中は一時停止をつづけ、信号がなくなると再スタートします。

10SEC PA

HOLD PA

スキャン再スタートタイマーの設定

RESUME

スキャンの一時停止後、受信信号が途切れてからの再スタートの条件(時間)を設定します。

- **OSEC** : 信号がなくなると、同時に再スタートします。
- **1~5SEC** : 信号がなくなると、1秒~5秒の各設定時間後、再スタートします。
(初期設定値：2秒)
- **HOLD** : 信号がなくなっても一時停止状態を保持します。(再スタートは[DIAL]操作)

2SEC rE

HOLD rE

スキャン停止時ビープ音の設定

STOP B

各種スキャンが停止したときに、ビープ音を鳴らすか、鳴らさないかを設定します。

- **OFF** : スキャンが停止しても、ビープ音は鳴りません。
(初期設定)
- **ON** : スキャンが停止するとビープ音を鳴らします。

OFF SB

ON SB

オフセット周波数の設定

OFF SET

デュプレックスモードで受信する、オフセット周波数を設定します。

デュプレックスモードで運用している局が使用している送信周波数と受信周波数の周波数差を設定します。

- 0.000～159.995MHzの範囲で設定できます。

初期設定値

430MHz/1200MHz帯以外

：0.000MHz

430MHz帯

：5.000MHz

1200MHz帯

：20.000MHz

※ 設定しているチューニングステップ(※P21)にしたがってシフト幅が切り替わります。

0000 0w

159.995 0w

デュプレックスモードの設定

DUP

送信と受信で異なった周波数を使用するデュプレックスモードで、交信中の通信を受信するために設定します。

- OFF : デュプレックスを使用しない。(初期設定)
- -DUP : 設定周波数とオフセット分低い周波数が受信できます。
- +DUP : 設定周波数とオフセット分高い周波数が受信できます。

OFF DP

--DUP DP

8 SET モードの設定

トーンスケルチ受信モードの設定 TSQL

トーンスケルチ、DTCSコードスケルチ、CTCSS/DTCSポケットビーブの受信モードを設定します。

- OFF : トーンを使用しません。
(初期設定) OFF TO
- TSQL (⊙) : CTCSSポケットビーブ受信モードにします。
TSQL TO
- TSQL : トーンスケルチ受信モードにします。
- DTCS (⊙) : DTCSポケットビーブ受信モードにします。
- DTCS : DTCSコードスケルチ受信モードにします。
- TSQL-R : 逆トーンスケルチ受信モードにします。
- DTCS-R : 逆DTCSコードスケルチ受信モードにします。

CTCSS トーン周波数の設定 TONE

トーンスケルチ通信を受信するための、トーン周波数を設定します。

- 67.0Hz～254.1Hzの50波の中から選択します。(初期設定：88.5Hz) 885 CT

トーン周波数一覧表(単位：Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

DTCSコードの設定

CODE

DTCSコードスケルチ通信を受信するための、DTCSコードを設定します。

- 023～754の104波の中から選択します。
(初期設定値：023)

DTCSコード一覧表

023	072	152	244	311	412	466	631
025	073	155	245	315	413	503	632
026	074	156	246	325	423	506	654
031	114	162	251	331	431	516	662
032	115	165	252	332	432	523	664
036	116	172	255	343	445	526	703
043	122	174	261	346	446	532	712
047	125	205	263	351	452	546	723
051	131	212	265	356	454	565	731
053	132	223	266	364	455	606	732
054	134	225	271	365	462	612	734
065	143	226	274	371	464	624	743
071	145	243	306	411	465	627	754

DTCS位相反転機能の設定

DTCS P

DTCSコード検出の位相を設定します。

- NORMAL : 位相を反転しません。
(初期設定：NORMAL)
- REV : 位相を反転します。

空線キャンセラー機能の設定

CANCEL

空線信号、MSK制御音をキャンセルする機能を設定します。

- OFF : キャンセラー機能を使用しません。(初期設定)
- TRAIN1 : 空線信号をキャンセルする場合に選択します。
※検出する空線信号の周波数は、空線信号周波数の設定で設定します。
- TRAIN2 : 1500HzのシングルトーンとMSK制御信号が交互に切り替わる信号を検出します。
※検出する空線信号の周波数は固定です。
- MSK : MCAの制御音をキャンセルする場合に使用するMSK機能を選択します。

8 SETモードの設定

空線信号の設定

TFRQ

空線信号の周波数の設定をします。

- 300～3000：10Hzステップで設定できます。
(初期設定値：2280Hz)

2280 TF

※ 前項目「空線キャンセラー機能の設定」で「TRAIN1」が選択されているときに設定できます。

ボイススケルチコントロール機能の設定

VSC

ボイススケルチコントロール機能を設定します。
受信している信号に音声信号が含まれていれば、スケルチを開き、含まれていなければスケルチを開きません。

- ON：ボイススケルチコントロール機能を設定します。
- OFF：動作しません。(初期設定)

OFF VSC

ON VSC

バンクのリンク設定

B-LINK

バンクリンクスキャンで、リンクするバンクを選択します。

- B-LINK
BANK-A～BANK-Yの中から選択します。

A-ON BL

※ [MODE] を押し、[DIAL] を回してバンクを選択します。

Y-ON BL

[FUNC] を押しながら [DIAL] を回すと、リンク機能を「ON/OFF」します。

[MODE] を押すと、「B-LINK」画面に戻ります。

〈リンクの選択〉

ON：選択したバンクをリンクします。(初期設定)

A-ON BL

OFF：選択したバンクをリンクしません。

A-OFF BL

プログラムスキャンのリンク設定

P-LINK

プログラムリンクスキャンで、複数のプログラムスキャン (PROG 0～PROG24)をリンク設定します。

オールリセット時の状態で、すべてのリンクチャンネル (LINK0～LINK9)に、「PROG 0」以外のプログラムスキャン (PROG 1～PROG24)をあらかじめリンク設定しています。

● P-LINK

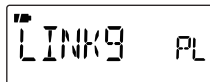
LINK0～LINK9の中から選択します。

〈リンク設定のしかた〉

①[MODE]を押し、[DIAL]を回してリンクチャンネル(LINK0～LINK9)を選択します。



LINK0 PL



LINK9 PL

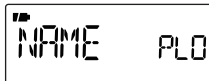
②リンクチャンネルを選択後、[MODE]を押し、[DIAL]を回して項目を切り替え、再度[MODE]を押します。



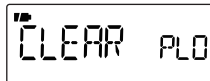
LINK PLO



ADD PLO



NAME PLO



CLEAR PLO

LINK : リンクされているプログラムスキャンを表示します。
[DIAL]を回すと、プログラムスキャンを確認でき、[TS]を押すとLINK画面に戻ります。

NAME : リンクチャンネルのネームを入力します。
[FUNC]を押しながら [DIAL]を回すと、文字を選択でき、[DIAL]を右に回すとカーソルが右に移動し、左に回すとカーソルが左に移動します。
[MODE]を押すと、ネームを登録してNAME画面に戻ります。

※編集中に[TS]を押すと、NAME画面に戻ります。

※ネームは6文字まで入力できます。

(使用可能文字一覧：P30)

ADD : プログラムスキャンを追加します。
[DIAL]を回してプログラムスキャンを選択します。
[MODE]を押すと、選択したプログラムスキャンを追加し、ADD画面に戻ります。

※選択中に[TS]を押すと、ADD画面に戻ります。

CLEAR : プログラムスキャンをリンクから解除します。
[DIAL]を回してプログラムスキャンを選択します。
[MODE]を押すと選択したプログラムスキャンをリンクから解除し、CLEAR画面に戻ります。

※選択中に[TS]を押すと、CLEAR画面に戻ります。

③[SET] (TS)を3回押すと、SETモードを解除します。

8 SET モードの設定

ディスプレイのコントラストの設定

CONT

ディスプレイのコントラストを設定します。

- 1～5：1(淡)～5(濃)の範囲で設定
できます。
(初期設定値：2)

" 2 LC

AF フィルターの設定

AF FIL

高音域のノイズを抑える、AFフィルター機能を設定します。

※受信モード(FM、WFM、AM)ごとに設定できます。

- ON：AFフィルター機能を設定します。
- OFF：AFフィルター機能を設定しません。(初期設定)

" OFF AF

" ON AF

通常充電後の充電方法の設定

CHARGE

15時間の充電完了後から、微量の電気が消費されていくのを防ぐため、少しずつ充電して常に満充電の状態にする機能を設定します。

- CHG1：充電完了後は充電しません。
- CHG2：充電完了後も常に満充電になるように充電しつづけます。(初期設定)

" CHG2 CG

" CHG1 CG

CI-V のアドレスの設定

CI-V AIR

CI-Vシステムで、本製品を外部からコントロールするときの本製品のアドレスを設定します。

- 01～DFの中から選択します。
(初期設定値：7E)

CI-V のボーレートの設定

CI-V BAU

CI-Vシステムで、本製品を外部からコントロールするときの通信速度を設定します。

- AUTO/19200bps/9600bps/4800bps/1200bps/300bps の中から選択します。
(初期設定：AUTO)

※[AUTO]に設定した場合、接続した機器からのデータ通信速度に応じて自動設定します。

CI-V のトランシーブの設定

CI-V TRN

CI-Vシステムを利用した、トランシーブ機能の[ON/OFF]を設定します。

- ON：受信機の周波数や受信モードなどの設定を変更したとき、接続しているCI-V無線機/受信機の設定も自動的に変更する、トランシーブ動作をします。逆に、接続しているCI-V無線機/受信機の設定内容が変更されたときは、自動的に受信機の設定内容も変更されます。
(初期設定)
- OFF：トランシーブ動作をしません。

9

各種の交信を受信するために

■ デュプレックス通信を受信する

◇ デュプレックス通信とは

デュプレックス通信とは、通常の交信(シンプレックス：送受信同一周波数)とは異なり、同一バンド内で送信と受信の周波数をずらして交信することです。

- ◎ 「DUP(プラス)」を設定すると、モニター機能进行操作したときに、設定周波数からオフセット周波数分高い周波数が受信できます。
- ◎ 「DUP-(マイナス)」を設定すると、モニター機能进行操作したときに、設定周波数からオフセット周波数分低い周波数が受信できます。

デュプレックス通信は、430MHz/1200MHz帯のアマチュア無線用FMレピータシステムや各通信分野で広く利用されています。

本製品にデュプレックスモードを設定すると、ワンタッチの切り替え操作で、送信/受信両方の周波数が受信できます。デュプレックス通信を受信するときは、オフセット周波数の設定も必要です。

◇ オフセット周波数とは

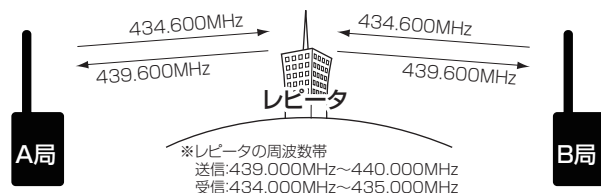
デュプレックス通信で、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

デュプレックスモード、およびオフセット周波数は、SETモードで設定します。(※P55)

【例】430MHz帯のレピータ交信を受信するには

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局と交信できたり、通信範囲(通信距離)を拡大したりするための、自動無線中継装置のことです。

レピータ交信の概略と周波数例



- 通常、アマチュア無線で運用される430MHz帯のレピータ交信は、オフセット周波数を5.000MHzに設定しています。上図の場合、レピータは434.600MHzを受信すると、自動的に439.600MHzの周波数に変換して送信します。
- 本製品で上図のような交信を受信するには、デュプレックスモードとオフセット周波数5.000MHzの設定が必要です。
430Mバンド：レピータ受信用に5.000MHzを初期設定
1200Mバンド：レピータ受信用に20.000MHzを初期設定
- デュプレックスモードは、次のように設定します。
本製品の受信周波数を439.600MHz(レピータの送信周波数)に設定したときは“-DUPモード”に、434.600MHz(レピータの受信周波数)に設定したときは“+DUPモード”に設定してください。

◇レピータの周波数を設定する

レピータの周波数帯は、下記の通りです。

送信：439.000～440.000MHz
 ：1290.000～1293.000MHz
 受信：434.000～435.000MHz
 ：1270.000～1273.000MHz

- ① [V/M]を数回押して、VFOモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、430Mバンド(1200Mバンド)を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、439.600MHz(1272.340MHz)を設定します。



◇デュプレックスモードとオフセット周波数を設定する

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、SETモードにします。
- ② [DIAL]を回して、「EXPAND」(機能拡張の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、「DUP」(デュプレックスの設定)を選択します。

- ④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「-DUP」、または「+DUP」を選択します。



- ⑤ [DIAL]を回して、「OFFSET」(オフセット周波数の設定)を選択します。



※430MHz帯：5.000MHz/1200MHz帯：20.000MHz、
 その他のバンドは0.000MHzを初期設定しています。
 ※オフセット周波数を変更するときは、[FUNC]を押しな
 がら[DIAL]を回して、周波数を設定します。
 ※VFOモードで設定しているチューニングステップ(※P21)
 で動作します。

- ⑥ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除してデュプレックスモードになります。



「-DUP」モード設定時



「+DUP」モード設定時

9 各種の交信を受信するために

◇ デュプレックス通信の両周波数を受信する

[SQL]を押します。

- 400Mバンドの場合は押ししているあいだ、5.000MHz(初期設定値)低い434.600MHzを受信します。
- 1200Mバンドの場合は押ししているあいだ、20.000MHz(初期設定値)高い1292.340MHzを受信します。

※ [SQL]を押すと「-DUP」モードのとき、オフセット周波数分低い周波数を受信します。

「+DUP」モードのときは、オフセット周波数分高い周波数を受信します。

「-DUP」モード設定時



5MHzシフトする

「+DUP」モード設定時



20MHzシフトする

※ デュプレックスモードを解除するときは、SETモードにして、「DUP」(デュプレックスの設定)を「OFF」にします。
(P55)

■ トーン/DTCESを使った通信を受信する

◇ トーンスケルチ/DTCESコードスケルチ機能とは

トーンスケルチは、受信した周波数に重畳したトーン周波数が一致したときだけスケルチが開いて音声聞こえます。

アマチュア無線、簡易業務用無線、特定小電力無線などの通信に利用されています。

本製品に設定している周波数およびトーン周波数が同じ信号だけを受信できます。

逆に、自局が設定したトーン周波数やDTCESコード(FMモード)を受信したときだけ、スケルチが開かない逆トーンスケルチ/逆DTCESスケルチ(TSQL-R/DTCES-R)も用途にあわせてご利用ください。

◇ ポケットビープ機能とは

トーンスケルチ/DTCESコードスケルチ機能で受信したとき、ビープ音で知らせる便利な機能です。

呼び出しを受けると、ビープ音“ピロピロピロ”が約30秒間鳴りつづけるとともに、表示部の「(●)」(ベルマーク表示)を点滅して知らせるので、聞き逃すことはありません。

◇ トーン周波数を設定する

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
- ② [DIAL]を回して、「EXPAND」(機能拡張の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、「TONE」(CTCSSトーン周波数の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、トーン周波数を選択します。
- ④ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除します。



CTCSSトーン周波数の設定

88.5選択時

◇ DTCSコードを設定する

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
- ② [DIAL]を回して、「EXPAND」(機能拡張の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、「CODE」(DTCSコードの設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、コードを選択します。
- ④ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除します。



DTCSコードの設定

023選択時

◇ 受信モードを設定する

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
- ② [DIAL]を回して、「EXPAND」(機能拡張の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、「TSQL」(トーンスケルチ受信モードの設定)を選択します。
- ④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、受信モードを選択します。
 - OFF : トーンを使用しません。(初期設定)
 - TSQL (⊙) : CTCSSポケットビーブ受信モードにします。
 - TSQL : トーンスケルチ受信モードにします。
 - DTCS (⊙) : DTCSポケットビーブ受信モードにします。
 - DTCS : DTCSコードスケルチ受信モードにします。
 - TSQL-R : 逆トーンスケルチ受信モードにします。
 - DTCS-R : 逆DTCSコードスケルチ受信モードにします。
- ⑤ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除し、周波数表示画面に受信モードを表示します。



トーンスケルチ受信モードの設定

CTCSSポケットビーブ選択時

9 各種の交信を受信するために

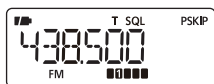
◇ トーン通信/DTCSコード通信を受信すると

- トーンスケルチ機能またはDTCSコードスケルチ機能を設定しているときは

設定しているトーン周波数、またはDTCSコードが同じ電波を受信するとスケルチが開き、通信している局の音声が入ります。

※逆トーンスケルチ機能または逆DTCSコードスケルチ機能を設定しているときは、トーン周波数、またはDTCSコードが同じ電波を受信するとスケルチが閉じ、それ以外の電波を受信するとスケルチが開きます。

トーンスケルチ



DTCSコードスケルチ



逆トーンスケルチ



逆DTCSコードスケルチ



- ポケットビープ機能を設定しているときは

受信するとベルが約30秒間鳴りつづけ、「(●)」表示が点滅します。

CTCSSポケットビープ



DTCSポケットビープ

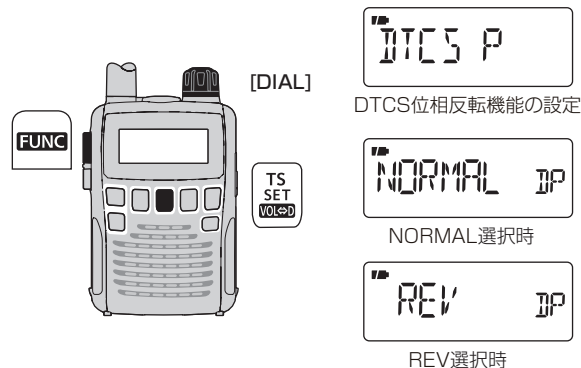


■ DTCS位相反転機能について

受信する局(送出側)にあわせて、DTCSコードの検出の位相を設定できます。

DTCS位相反転機能は、SETモードで変更できます。

- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
- ② [DIAL]を回して、「EXPAND」(機能拡張の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、「DTCS P」(DTCS位相反転機能の設定)を選択します。
- ④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「NORMAL」または「REV」を選択します。
 - NORMAL : 位相を反転しません(初期設定)
 - REV : 位相を反転します
- ⑤ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除します。



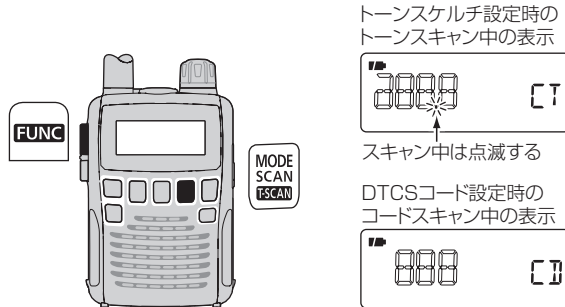
■ トーン/コードスキャンのしかた

トーンスケルチ機能を使用して交信している局が、どのトーン周波数またはDTCSコード(☎P56、P57)を使用しているかを検知するスキャンです。

- VFO/メモリーモードに関係なく動作します。
- スキャン中に [DIAL] を時計回りに回すと、アップスキャンに、反時計回りに回すとダウンスキャンに切り替えます。

◇ スタート操作

- ① 受信モードを設定します。65ページの「◇受信モードを設定する」を参照してください。
- ② [FUNC] を押しながら [T-SCAN] (MODE) を押しと、トーンスキャンまたはDTCSコードスキャンを開始します。
※ トーンスケルチ、コードスケルチを設定していない場合は、トーンスキャンになります。
- ③ [T-SCAN] (MODE) を押しと、トーンスキャン動作を解除します。



- スキャン中に信号を受信して、スケルチが開くとゆっくりスキャンし、信号がなくなりスケルチが閉じているときは速くスキャンします。
- 一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き換えたあと、トーン/コードスキャンを再スタートします。
ただし、M-CHでトーンスキャンしたときは、一時的に記憶しますが、書き換えはしません。
- ポケットビープ状態から、トーンスキャンをすると、ポケットビープを解除して、トーン周波数(DTCSコード)スキャンになります。
- 隣接したトーン周波数/DTCSコードを使用している局があると、トーンスケルチを開くことがあります。

10 その他の便利な機能

■ ボイススケルチコントロール機能について

ボイススケルチコントロール機能は、受信した信号に音声信号が含まれているかを識別し、スケルチを制御します。

音声信号が含まれていればスケルチを開き、含まれていなければスケルチを閉じます。

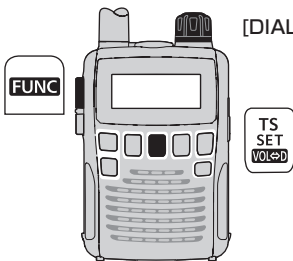
- ① [SET] (TS)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、SETモードにします。
- ② [DIAL]を回して、「EXPAND」(機能拡張の設定)を選択し、[FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」を選択します。
- ③ [DIAL]を回して、「VSC」(ボイススケルチコントロール機能の設定)を選択します。
- ④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、「ON」または「OFF」を選択します。
- ⑤ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除します。

※「ON」に設定すると、VSC機能による受信状態になります。



ボイススケルチコントロール機能の設定

ON選択時



■ ビープ音について

キー操作をしたとき、その操作が有効か無効かを、下記のようにビープ音で知らせる機能です。

● ビープ音の種類

- “ピッ” : 短く押すキー操作が正しいとき
- “ピッ、ピー” : 長く押すキー操作が正しいとき
- “ブッ” : キー操作が無効のとき
- “ピッ ピピ” : メモリー書き込み操作が正しいとき

※ SETモードの「BEEPLV」(ビープ音(操作音)レベルの設定)項目(☞P51)でビープレベルの設定、「BEEP」(ビープ音(操作音)の設定)項目(☞P50)で、ビープ音の「ON/OFF」が設定できます。

■ クローニングについて

クローニングとは、1台のIC-R6に設定したメモリーの内容やSETモードの設定内容を、ほかのIC-R6に送出して、同じ設定内容にする機能です。

◇ クローニングのしかた

- ① 下図のようにOPC-474(別売品)で接続します。
- ② 子機(クローン受信側)の電源を“ON”にします。

【ご注意】

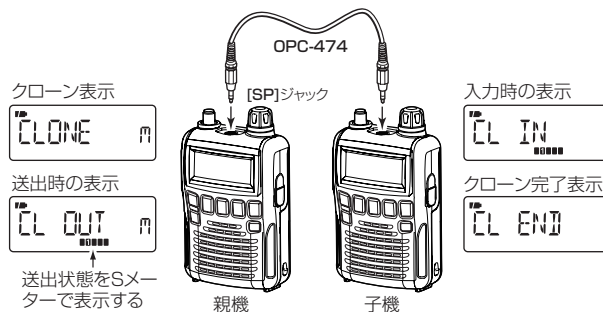
CI-Vボーレートの設定(☞P61)で通信速度を「9600」と「AUTO」以外に設定した場合は、[MODE]を押しながら電源を入れてください。

③ 親機(送出側)の操作

[V/M]を押しながら [ON] を押して、電源を入れます。
[CLONE M]を表示します。

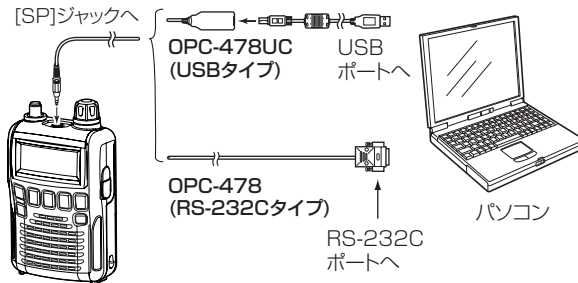
- ④ [SQL] を押しと、親機(クローニング送信側)では[CL OUT]を表示し、設定内容を送出します。子機(クローニング受信側)では[CL IN]を表示します。

※子機(クローニング受信側)に[CL END]を表示して、クローニングが完了します。(親機は[CLONE M]を表示)



◎クローニングには左記の本体同士でのクローニングのほか、パソコン(PC)でクローニングする方法があります。
PC用クローニングソフトウェアとして、CS-R6をご用意しています。

詳しくは、販売店におたずねください。



10 その他の便利な機能

■ CI-V(リモート)について

◇ CI-Vのデータ設定について

CI-Vシステムを利用して外部コントロールするとき、本製品のアドレス、ボーレート、トランシーブ“ON/OFF”のデータが必要になります。

これらの項目は、SETモードで設定します。(P61)

◇ パソコンの接続

IC-R6にパソコンを接続することにより、受信周波数と受信モードを外部制御できます。

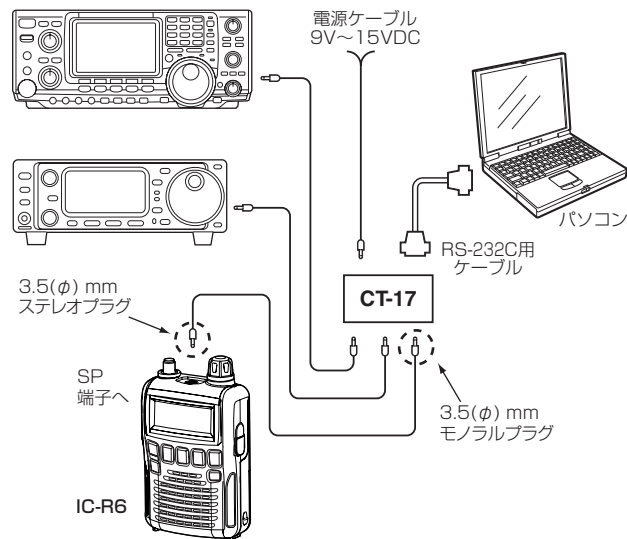
コントロールは、ICOM Communication Interface V(CI-V: シーアイファイブ)によるシリアル方式です。

別売品のCT-17(CI-Vレベルコンバータ)を使用することにより、RS-232Cタイプのシリアルポートを持つパソコンが接続でき、外部コントロールができます。

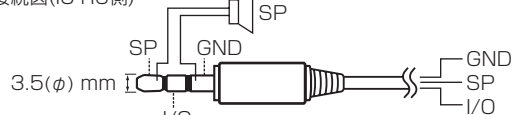
パソコンでアイコムを受信機、および無線機を制御する方法は、CT-17に添付の取扱説明書をご覧ください。

※右図に示すケーブルで接続してください。

CT-17に付属のケーブルで接続すると、受信音は聞こえませんので、ご注意ください。



● 接続図 (IC-R6側)



※CT-17側にはSPは不要

■ CI-Vの基本フォーマットについて

(1) コントローラー(パソコン) → レシーバー(IC-R6)

① プリアンブル				② 受信 アドレス		③ 送信 アドレス		④ コマンド		⑤ サブ コマンド		⑥ データエリア						⑦ EOM	
F	E	F	E	7	E	E	0	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	F	D

(2) レシーバー → コントローラー

① プリアンブル				② 受信 アドレス		③ 送信 アドレス		④ コマンド		⑤ サブ コマンド		⑥ データエリア						⑦ EOM	
F	E	F	E	E	0	7	E	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	F	D

- ①プリアンブル : データのはじめに挿入する同期用のコードで、16進の“FE”を2回送出します。
- ②受信アドレス/③送信アドレス : IC-R6の初期アドレスは“7E(16進)”とし、コントローラーは“E0”としたときの例を示しています。
- ④コマンド : コントロールできる機能を16進2桁でコマンドとしています。(P72)
- ⑤サブコマンド : コマンド補足命令として16進2桁を用います。(P72)
- ⑥データエリア : 周波数データなどをセットするエリアで、データにより可変長とします。
- ⑦EOM : メッセージの終わりを示すコードで、16進の“FD”とします。

10 その他の便利な機能

■ コマンド一覧表

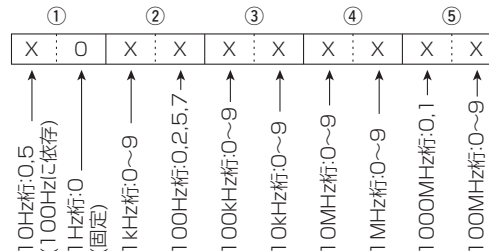
コマンド	サブ	データ	動作
00		右図参照	周波数データの転送(トランシープ)
01		コマンド06参照	受信モードの転送(トランシープ)
03		右図参照	表示周波数の読み込み
04		コマンド06参照	表示モードの読み込み
05		右図参照	周波数データの設定
06		02	AMモードの設定
		05	FMモードの設定
		06	WFMモードの設定
11	*	00/10	アッテネーター(ATT)の読み込み/設定 ※00=OFF、10=ON(約10dB)
12	*	00/01	アンテナの読み込み/設定 0.495MHz~1.620MHz帯 ※00=EXT、01=BAR* *パーアンテナの設定はAMモード時のみ そのほかの周波数帯 ※00=EXT、01=EAR
14	01*	P73参照	AFゲイン(音量)の読み込み/設定
	03*	P73参照	スケルチレベルの読み込み/設定
15	01	00/01	スケルチの状態(開/閉)の読み込み ※00=閉じる、01=開く
	02	P73参照	Sメーターレベルの読み込み
16	43*	00	トーンスケルチ OFF
		01	トーンスケルチ ON
		02	逆トーンスケルチ ON
	4B*	00	DTCSコードスケルチ OFF
		02	逆DTCSコードスケルチ ON

コマンド	サブ	データ	動作
16	4C*	00	ボイススケルチコントロール機能 OFF
		01	ボイススケルチコントロール機能 ON
	54*	00	空線キャンセラー機能 OFF
		01	空線キャンセラー機能(TRAIN1) ON
		02	空線キャンセラー機能(TRAIN2) ON
	03	MSKキャンセラー機能 ON	
19	00		本製品のIDコードを読み込み
1A	00*	00/01	AFフィルターの読み込み/設定 ※00=OFF、01=ON
1B	01*	P73参照	トーン周波数の読み込み/設定
	02*	P73参照	DTCSコード: 極性の読み込み/設定
	06*	P73参照	空線信号周波数の読み込み/設定

※[*]マークの項目は読み込み/設定ができます。

● 受信周波数のデータ設定

コマンド: 00、03、05



※10Hz桁は、100Hz桁が2または7であれば5固定となり、そのほかは0固定になります。

※チューニングステップ(TS)が8.33kHz(AIRバンド)の場合、100Hz桁: 3.6/10Hz桁:3.6/1Hz桁:3.6が設定できます。

●音量のデータ設定

コマンド：1401

VOL0	VOL1	VOL2	VOL3	VOL4
0000~0005	0006~0012	0013~0018	0019~0025	0026~0031
VOL5	VOL6	VOL7	VOL8	VOL9
0032~0037	0038~0044	0045~0050	0051~0057	0058~0063
VOL10	VOL11	VOL12	VOL13	VOL14
0064~0069	0070~0076	0077~0082	0083~0089	0090~0095
VOL15	VOL16	VOL17	VOL18	VOL19
0096~0101	0102~0108	0109~0114	0115~0121	0122~0127
VOL20	VOL21	VOL22	VOL23	VOL24
0128~0133	0134~0140	0141~0146	0147~0153	0154~0159
VOL25	VOL26	VOL27	VOL28	VOL29
0160~0165	0166~0172	0173~0178	0179~0185	0186~0191
VOL30	VOL31	VOL32	VOL33	VOL34
0192~0197	0198~0204	0205~0210	0211~0217	0218~0223
VOL35	VOL36	VOL37	VOL38	VOL39
0224~0229	0230~0236	0237~0242	0243~0249	0250~0255

●スケルチレベルのデータ設定

コマンド：1403

OPEN	AUTO	LEVEL1	LEVEL2	LEVEL3
0000~0022	0023~0045	0046~0069	0070~0092	0093~0115
LEVEL4	LEVEL5	LEVEL6	LEVEL7	LEVEL8
0116~0139	0140~0162	0163~0185	0186~0208	0209~0231
LEVEL9				
0232~0255				

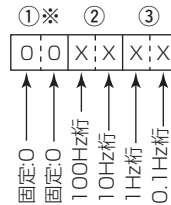
●Sメーターレベルのデータ値

コマンド：1502

S値	表示なし	1	3	5	7	9	フルスケール
データ	0000	0016	0048	0080	0112	0144	0160

●トーン周波数のデータ設定

コマンド：1B01

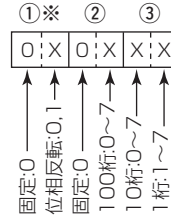


※周波数を設定するときは、入力不要です。

トーン周波数一覧表については56ページをご参照ください。

●DTCSコード・極性のデータ設定

コマンド：1B02

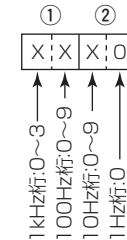


※位相を反転しないときは00、反転するときには01を設定してください。
反転しないとき(00)は入力を省けます。

DTCSコード一覧表については57ページをご参照ください。

●空線信号周波数のデータ設定

コマンド：1B06



空線信号周波数は、300Hz～3000Hzの範囲(10Hzステップ)で設定します。

11 ご参考に

■ リセットするには

静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作して動作がおかしくなったときは、オールリセット、またはパーシャルリセット操作をしてください。

- ◎ オールリセット操作をすると、記憶されているデータはすべて消去され、変更した設定はすべて初期設定に戻ります。

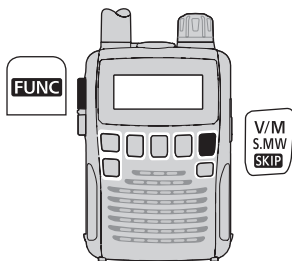
【ご注意】

出荷時よりプリセットされたM-CHリストも、オールリセットするとすべて消去されますので、ご注意ください。

- ◎ パーシャルリセット操作をすると、下記のデータはそのまま残ります。
 - メモリーチャンネルデータ
 - スキャンエッジ

◇ オールリセットのしかた

- ① **[ON]**を長く押し、電源を“OFF”にします。
- ② **[FUNC]**と**[V/M]**を同時に押しながら、**[ON]**を長く押しして電源を“ON”にします。
 - 「CLEAR」を表示したあと、初期表示になります。

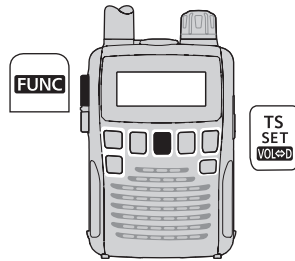


CLEAR

145000 PSKIP
FM

◇ パーシャルリセットのしかた

- ① **[ON]**を長く押し、電源を“OFF”にします。
- ② **[FUNC]**と**[TS]**を同時に押しながら、**[ON]**を長く押しして電源を“ON”にします。
 - 初期表示になります。
 - ※パーシャルリセットの場合、「CLEAR」表示はありません。



145000 PSKIP
FM

■ 故障かな？と思ったら

下記の現象は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまで、お問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
●電源が入らない	◎電池の接触不良 ◎電池の極性間違い ◎ニッケル水素電池またはアルカリ電池の消耗	●電池の端子を清掃する ●極性を確認して、電池を入れなおす ●ニッケル水素電池は充電し、アルカリ電池は入れ替える	P3 P2 P2、 P4～P7
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎[SP]ジャックに外部スピーカーを接続している	●[▲]を押して、音量を設定しなおす ●外部スピーカープラグが正常に接続されているか、またはケーブルが断線していないかを点検する	P14 —
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート(外部アンテナ使用时) ◎アッテネーターが“ON”になっている	●同軸ケーブルを点検し、正常にする ●アッテネーターを“OFF”にする	— P21
●BCバンドの感度が悪い	◎バーアンテナが選択されていない	●アンテナをSETモードでバーアンテナに切り替える	P17、P52
●[DIAL]を回すと、音量が変化する	◎反転機能が動作している	●[FUNC]を押しながら[VOL ⇄ D](TS)を押して、反転機能を解除する	P23
●[▲]または[▼]を押すと、周波数が変化する	◎反転機能が動作している	●[FUNC]を押しながら[VOL ⇄ D](TS)を押して、反転機能を解除する	P23
●周波数の設定ができない	◎ロック機能が動作している ◎メモリーモードになっている	●ロック機能を解除する ●[V/M]を押して、VFOモードにする	P23 P19
●周波数が異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している ◎静電気などによる外部要因	●リセットする ●電池を装着しなおす	P74 P2
●プログラムスキャンが動作しない	◎VFOモードになっていない ◎PROGRAM-CHの「* * A」と「* * B」に同じ周波数が書き込まれている	●[V/M]を数回押して、VFOモードにする ●「* * A」と「* * B」に違う周波数を書き込む	P19 P26
●メモリースキャンが動作しない	◎メモリーモードになっていない ◎M-CHに2CH以上書き込まれていない	●[V/M]を数回押して、メモリーモードにする ●2CH以上をM-CHに書き込む	P19 P26
●セットモード中に、設定したい項目を表示しない	◎EXPANDを「OFF」にしている	●[EXPAND]を「ON」にする	P52

11 ご参考に

■ 故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」(※P75)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

◇弊社製品のお問い合わせ先について

- お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどで不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先：

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00～17:00)

電子メール：support_center@icom.co.jp/

アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

■ 一般仕様

- 受信周波数範囲：

0.100 ~ 252.895MHz	/255.100 ~ 261.895MHz
266.100 ~ 270.895MHz	/275.100 ~ 379.895MHz
382.100 ~ 411.895MHz	/415.100 ~ 809.895MHz
834.100 ~ 859.895MHz	/889.100 ~ 914.895MHz
960.100 ~ 1309.995MHz	
- 電波型式：FM、WFM、AM
- 使用温度範囲：-10~+60℃
- 基準周波数安定度：±1.0PPM以内(+25℃)
- 周波数分解能：5/6.25/8.33*/9*/10/12.5/15/20/25/
30/50/100/125/200kHz
*運用バンド、運用モードによっては選択できません。
- メモリーチャンネル：1300ch
- PROGRAM-CH：50ch(OOA~24B)
- オートメモリーライト用CH：200ch
- 電源電圧：外部端子：4.5~6.3V
電池端子：2.4V(ニッケル水素電池×2)
3.0V(アルカリ電池×2)
- 接地方式：マイナス接地
- アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡 (SMA型)
- 重量：約200g(アンテナ、電池を含む)
- 外形寸法：58(W)×86(H)×29.8(D)mm
(突起物を除く)

■ 受信部

- 受信方式：トリプルスーパーヘテロダイン
- 中間周波数：1st：266.700MHz
2nd：19.65MHz(FM/AM)、
19.95MHz(WFM)
3rd：450kHz(FM/AM)、
750kHz(WFM)

- 低周波出力：内蔵SP(16Ω 10%歪率時)150mW以上
(3.0V時) 外部SP(8Ω 10%歪率時)80mW(typ.)
- 低周波負荷インピーダンス：内蔵SP 16Ω /外部SP 8Ω
- 選択度：AM、FM 12kHz以上/ -9dB
30kHz以下/ -60dB
WFM 150kHz以上/ -6dB
- 消費電流：受信時 130mA typ.
(3.0V時) 待ち受け時 65mA typ.
パワーセーブ時 30mA typ.
- 受信感度：(スプリアスポイントは除く)
FM 12dB SINAD(1kHz ±3.5kHz DEV)

1.625 ~ 4.995MHz	-10dBμ (typ.)
5.000 ~ 29.995MHz	-12dBμ (typ.)
30.000 ~ 117.995MHz	-15dBμ (typ.)
118.000 ~ 246.995MHz	-15dBμ (typ.)
247.000 ~ 469.995MHz	-15dBμ (typ.)
470.000 ~ 832.995MHz	-10dBμ (typ.)
833.000 ~ 1029.995MHz	-11dBμ (typ.)
1030.000 ~ 1309.995MHz	-9dBμ (typ.)

 WFM 12dB SINAD(1kHz ±52.5kHz DEV)

76.000 ~ 108.000MHz	1dBμ (typ.)
175.000 ~ 221.995MHz	1dBμ (typ.)
470.000 ~ 770.000MHz	5dBμ (typ.)

 AM 10dB S/N(1kHz 30% MOD)

0.495 ~ 4.995MHz	2dBμ (typ.)
5.000 ~ 29.995MHz	-1dBμ (typ.)
118.000 ~ 136.000MHz	-4dBμ (typ.)
222.000 ~ 246.995MHz	-4dBμ (typ.)
247.000 ~ 329.995MHz	-2dBμ (typ.)

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定値によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

13 別売品について

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる本製品の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧

マイクロホン/スピーカー関係

SP-13 : イヤホン

充電関係

BC-196 : バッテリーチャージャー(補修用)

BC-194 : バッテリーチャージャースタンド

※BC-196が必要

ケーブル/コントロールソフトウェア関係

CS-R6 : クローニングソフトウェア

※OPC-478/478UCのどちらか別途必要

OPC-474 : クローニングケーブル(本体間用)

OPC-478UC : クローニングケーブル

(パソコン間用：USBタイプ)

OPC-478 : クローニングケーブル

(パソコン間用：RS-232Cタイプ)

CP-18 : シガレットライターケーブル

CT-17 : CI-Vレベルコンバーター

その他

AD-92SMA : SMA-BNC変換アダプター

LC-146A : キャリングケース

	記号			V	
[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を入れ替える …		23	VFO周波数とM-CH ……………		44
	A		VFO周波数とメモリースキャン ……………		46
ATT機能について ……………		21	VFOスキャンとM-CH ……………		45
	C		VFOスキャンとメモリースキャン ……………		47
CI-V(リモート)について ……………		70	VFOモードとメモリーモードの切り替えかた ……………		19
CI-Vの基本フォーマットについて ……………		71	VFOモードのスキャン ……………		38
CP-18のヒューズ交換のしかた ……………		8	VSC機能について ……………		68
	D			あ	
DTCS位相反転機能について ……………		66	アマチュアバンドを受信してみる ……………		14
	F		アンテナの切り替えについて ……………		17
FM(ラジオ)放送を受信する ……………		16	一般仕様 ……………		77
	S		オートメモリーライトスキャンのしかた ……………		40
SETモードの設定方法 ……………		48		か	
			空線キャンセラー機能の設定 ……………		37
			クローニングについて ……………		69
			故障かな?と思ったら ……………		75
			故障のときは ……………		76
			コマンド一覧表 ……………		72

さくいん

さ

周波数を大きく変えるときは	20
受信バンド(周波数帯)について	18
受信部	77
上面/側面/前面パネル	9
スキップチャンネルの指定と解除のしかた	41
スキャンについて	34
設定項目の一覧表	49
設定項目の詳細について	50

た

チューニングステップを変える (周波数ステップの間隔を変える)	21
ディスプレイ	12
デュプレックス通信を受信する	62
電池の入れかた	2
トーン/DTCESを使った通信を受信する	64
トーン/コードスキャンのしかた	67
トーン周波数/コードを設定する	65
トーンスケルチ受信モード	56

な

ニッケル水素電池の充電のしかた	4
-----------------	---

は

ビーブ音について	68
付属品の取り付けかた	1
プライオリティースキャンについて	43
プログラムスキャン/プログラムリンクスキャン について	34
別売品一覧	78
別売品についてのご注意	78
ボイススケルチコントロール機能について	68

ま

メモリー(M-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた	26
メモリー/バンク/スキャンネームの使いかた	30
メモリークリア(消去)のしかた	33
メモリーチャンネル(M-CH)の内容	25
メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する	28
メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた	25
メモリーモードについて	24
メモリーモードのスキャン	42
モニターのしかた	22

ら

リセットするには	74
ロック機能の使いかた	23

IC-R6

操作ガイド

■電源のON/OFF

- [ON] を長く(1秒以上)押し、電源を“ON”にします。
※電源を“OFF”にするときは、再度 [ON] を長く(1秒以上)押しします。

■音量の調整

- [▲]/[▼] を押し調整します。(押しつづけると連続動作)

■スケルチの調整

- [SQL] を押しながら [DIAL] を回して調整します。

■VFOモードとメモリーモードの切り替え

- [V/M] を押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替えます。

■受信バンドの切り替え

- VFOモードにし、[BAND] を押し、受信バンドを選択します。
※押すごとに「BC(1M)」→「5M」→「50M」→「FM放送(76M)」→「AIR」→「144M」→「300M」→「430M」→「800M」→「1200M」→「BC(1M)」と受信バンドが切り替わります。

■周波数の設定

- ① [V/M] を数回押し、VFOモードにします。
- ② [DIAL] を回して、設定します。

■チューニングステップを変える

- ① [TS] を押すと、チューニングステップを表示します。
- ② [DIAL] を回して、チューニングステップを選択します。

■受信モード(電波型式)の設定

- [MODE] を押すごとに、受信モード(電波型式)が切り替わります。

■ロック機能の設定

- [FUNC] を押しながら [C] (BAND) を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、ロック機能を“ON/OFF”します。

■オールリセットのしかた

- ① [ON] を長く押し、いったん電源を切ります。
- ② [FUNC] と [V/M] を押しながら [ON] を長く押し、電源を入れます。
「CLEAR」表示したあと、初期表示になります。

■パーシャルリセットのしかた

- ① [ON] を長く押し、いったん電源を切ります。
- ② [FUNC] と [TS] を押しながら [ON] を長く押し、電源を入れます。
(「CLEAR」は表示しません。)

■メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

- ① [V/M] を数回押し、メモリーモードにします。
- ② [BAND] を数回押し、メモリーモード表示にします。
- ③ [DIAL] を回します。

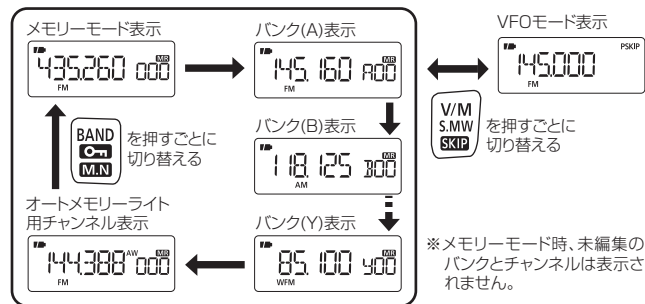
■M-CHへの書き込みかた

- ① [V/M] を数回押し、VFOモードにします。
- ② [BAND] を数回押し、受信するバンドを選びます。
- ③ [DIAL] を回して、周波数を設定します。
- ④ [S.MW] (V/M) を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライト状態にします。(M-CH表示部が点滅します。)
- ⑤ [DIAL] を回して、M-CHを選択します。
※[VF] を選ぶとVFO、[00A/00B~24A/24B] を選ぶとPROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑥ [S.MW] (V/M) を長く(ピッピビと鳴るまで)押し、メモリー内容を表示してVFOモードに戻ります。

■メモリーモード時の表示切り替えについて

- [BAND] を押すごとに、「メモリーモード」→「バンク A」→「バンク B」～「バンク Y」→「オートメモリーライト用チャンネル」→「メモリーモード」と表示と切り替えます。

●メモリーモードの表示切り替え



■メモリー内容を消去する

- ① メモリーモードまたはVFOモードを選択して、[S.MW] (V/M) を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライト状態にします。
- ② [DIAL] を回して、消去したいM-CHを選びます。
- ③ [MODE] を数回押し、「CLEAR」項目を選択します。
- ④ [S.MW] (V/M) を長く(ピッピビと鳴るまで)押し、メモリー内容を消去します。
- ⑤ 消去後、[S.MW] (V/M) を押しします。

■ SETモードの設定

- ① [SET] (TS)を長く(ビッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ② [DIAL]を回して、設定したい項目を選択します。
表示は約1秒後、設定内容表示に変わります。
- ③ 設定内容が表示されます。
- ④ [FUNC]を押しながら[DIAL]を回して、設定内容を選択します。
- ⑤ [SET] (TS)を押すと、SETモードを解除します。

■ VFOスキャン

- ① [V/M]を押して、VFOモードにします。
※スキップスキャンを選択するときは、[FUNC]を押しながら[SKIP] (V/M)を押して、「P SKIP」表示を点灯させます。
再度、同じ操作をすると「P SKIP」表示が消灯します。
- ② [SCAN] (MODE)を長く(ビッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ③ [DIAL]を回して、VFOスキャンの種類「ALL」(フルスキャン)/「BAND」(バンドスキャン)/「P-LINK0~9」(プログラムリンクスキャン)/「PROG 0~24」(プログラムスキャン)を選択します。
- ④ 選択後、[SCAN] (MODE)を押すと、スキャンを開始します。
※スキャン中に[BAND]を押して、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えることができます。
- ⑤ [SCAN] (MODE)を押すと、スキャンを解除します。

■ オートメモリーライトスキャン

- ① [V/M]を数回押して、VFOモードにします。
- ② [SCAN] (MODE)を長く(ビッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ③ [DIAL]を回して、スキャンの種類「ALL」(フルスキャン)/「BAND」(バンドスキャン)/「P-LINK0~9」(プログラムリンクスキャン)/「PROG 0~24」(プログラムスキャン)を選択します。
- ④ 選択後、[SCAN] (MODE)を押すと、スキャンを開始します。
- ⑤ [V/M]を押すと、「MR」表示が点滅して、オートメモリーライトスキャン動作となります。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネルが書き込まれている状態では、オートメモリーライトスキャンへの切り替えはできません。
※再度、[V/M]を押すとオートメモリーライトスキャンを解除します。
- ⑥ 信号を受信すると、5秒間一時停止して、受信した周波数をオートメモリーライト用チャンネルの最下位(***000)に書き込みます。
※書き込み時、ピーブ音が「ビビッ」と鳴り、書き込み後は、自動的に再スタートします。
※それ以前に書き込んだオートメモリーライト用チャンネルがあれば、順次上位チャンネルにシフトします。
※すべてのオートメモリーライト用チャンネル(200CH)を書き込んだときは、ピーブ音を「ピー」と鳴らしてスキャンを解除します。
- ⑦ [SCAN] (MODE)を押すと、スキャンを解除します。

■ メモリースキャン/メモリーバンクスキャンの操作

- ① [V/M]を数回押して、メモリーモードにします。
- ② [BAND]を数回押して、メモリーモード表示/バンク表示を選択します。
- ③ [SCAN] (MODE)を長く(ビッ、ピーと鳴るまで)押します。
- ④ [DIAL]を回して、スキャン範囲「M-ALL」(フルスキャン)/「B-ALL」(フルバンクスキャン)/「B-LINK」(バンクリンクスキャン)/「BANK-A」(バンクスキャン)を選択します。
※なお、バンクスキャン中に[BAND]を押して、バンクを切り替えることができます。
- ⑤ [SCAN] (MODE)を押すと、スキャンを開始します。
- ⑥ [SCAN] (MODE)を押すと、スキャンを解除します。

■ スキップ機能の設定

- ① [FUNC]を押しながら[SKIP] (V/M)を押すごとに、「SKIP」→「P SKIP」→「消灯」(解除)と表示が切り替わります。

■ VFOモード時

- [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、設定している周波数ステップで周波数をアップまたはダウンします。(初期設定値：1MHzステップ)
- [FUNC]を押しながら[VOL] (TS)を押すと、[DIAL]と[▲]/[▼]に割り当てている機能を反転します。(反転機能動作時は「VOL」表示が点灯します。)
- [FUNC]を押しながら[SQL]を押すと、アッテネーター(ATT)機能を「ON/OFF」します。

■ メモリーモード時

- [FUNC]を押しながら[DIAL]を回すと、M-CHを10CHステップでアップまたはダウンします。
- [FUNC]を押しながら[M.N] (BAND)を押すごとに、「周波数表示」→「B NAME」(バンクネーム)→「M NAME」(メモリーネーム)→「CH-000」(チャンネル表示)と表示を切り替えます。

高品質がテーマです。

A-6809H-1J-①
Printed in Japan
© 2010 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32